

【令和6年度】第3回水俣市地域公共交通協議会

日時：令和6年10月31日（木） 14時00分～

場所：水俣市役所2階 会議室AB

次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事 等

報 告 令和6年度第2回水俣市地域公共交通協議会の
書面協議の結果について・・・資料1

議 事 【第1号議案】
現状分析・各種調査結果の報告、公共交通の
課題について・・・資料2

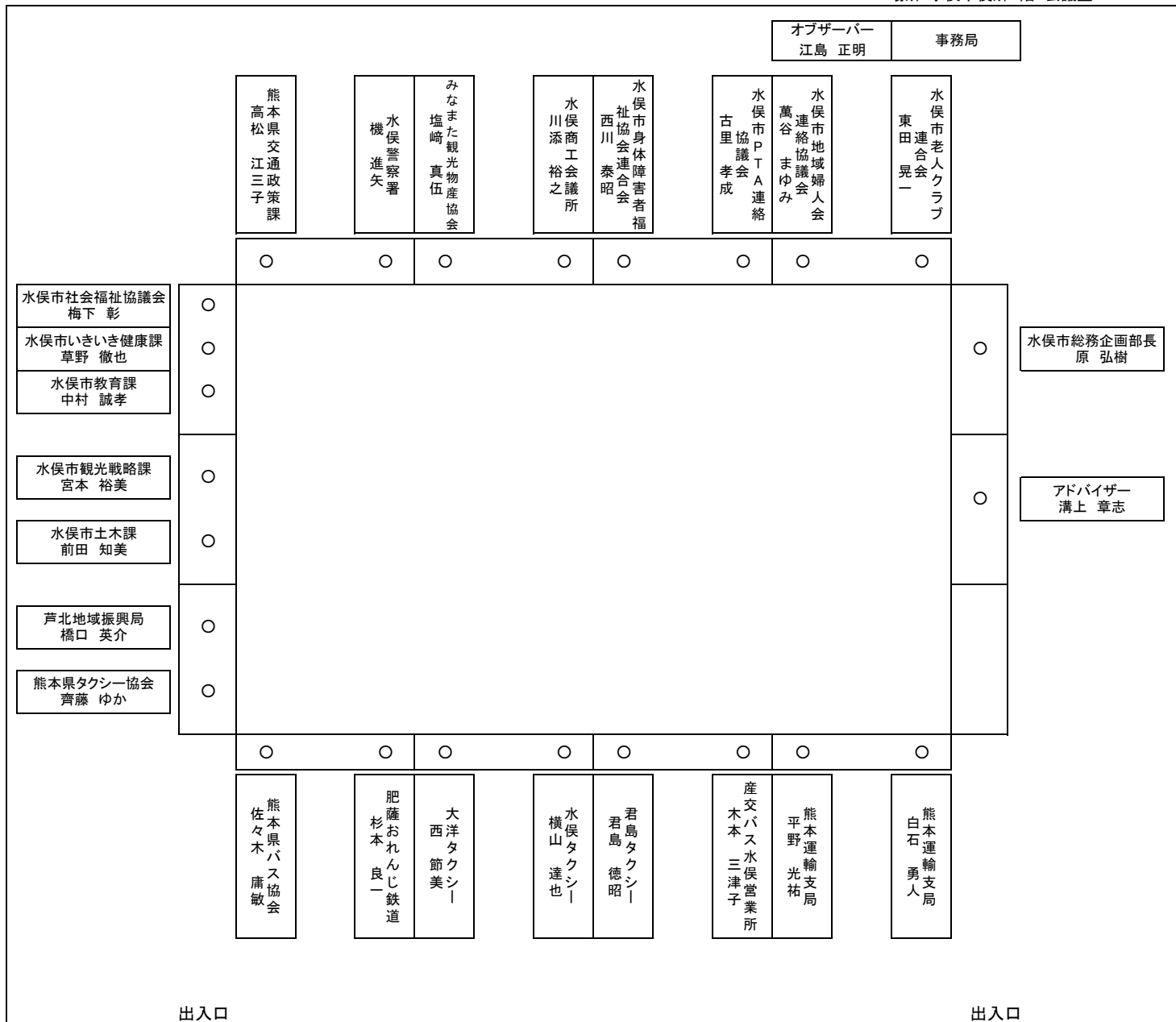
4 そ の 他

5 閉 会

令和6年度第3回水俣市地域公共交通協議会

日時:令和6年10月31日(木)14:00～

場所:水俣市役所2階 会議室AB



報 告 令和6年度第2回水俣市地域公共交通協議会の 書面協議の結果について

第2回水俣市地域公共交通協議会の書面協議の結果について、下記のとおり報告します。

記

【第1号議案】

みなくるバス（コミュニティバス）の時刻変更について
（令和6年8月9日付け水地交第6号にて依頼）

【回 答 数】

委 員 数：30名（会長除く）

回 答 数：30名

【回答結果】

同意する ： 30名※

同意しない： 0名

無回答 ： 0名

※白石委員、平野委員は立場上、内容確認のみ（熊本運輸支局）

◆全委員から同意を得たため、原案のとおり承認

水俣市地域公共交通協議会設置要綱（抜粋）

（会議）

第7条 会議は、会長が招集する。

5 会議の議事は、合意を原則とする。ただし、協議が調わないときは、出席委員の過半数をもって決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

令和6年度 第3回水俣市地域公共交通協議会

第1号議案

現状分析・各種調査結果の報告、公共交通の課題について

—目次—

1. 地域現状・公共交通の利用状況.....	1
2. 市民アンケート調査結果.....	4
3. 交通事業者等ヒアリング調査結果.....	12
4. 現状分析・調査結果を踏まえた課題・取組の方針.....	13

水俣市地域公共交通協議会 事務局

令和6年10月31日(木)

1 人口減少・高齢化社会への対応

- 本市の人口は、R2年で23,557人であり、年々減少傾向となっている。
- 小学校区別にみると、水俣第一小学校区と水俣第二小学校区に全体の7割が集中している。

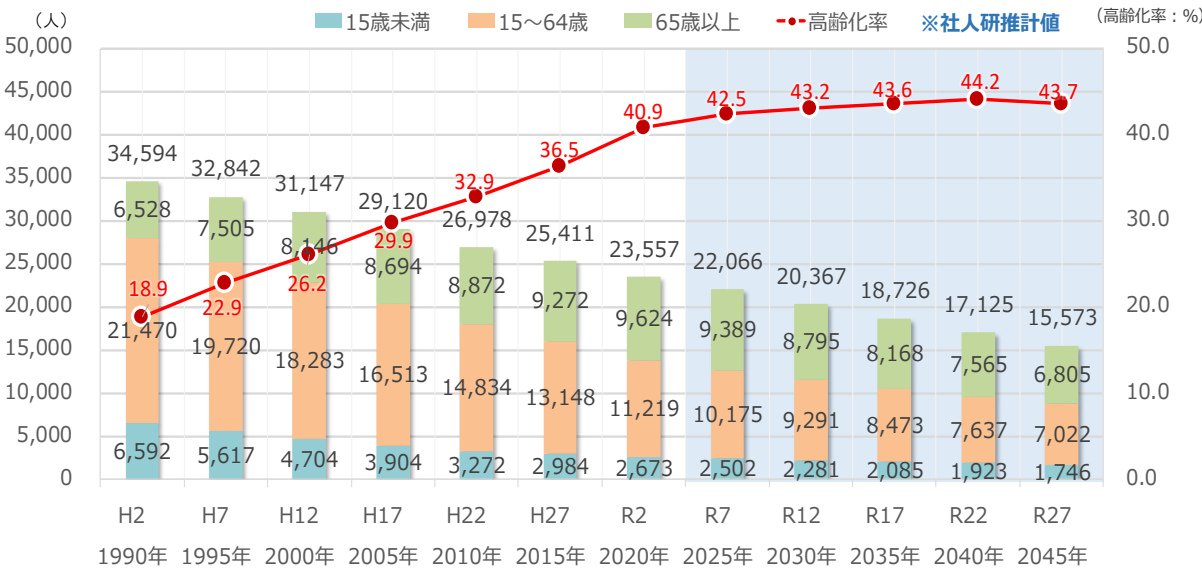


図 総人口の推移・年齢構成

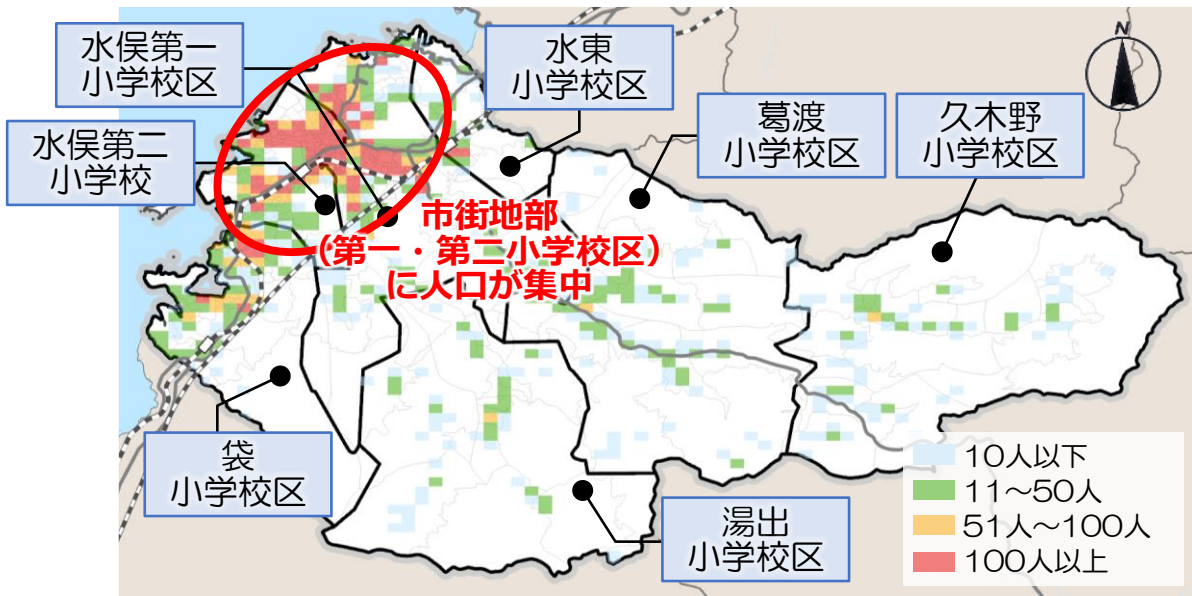


図 小学校区別の人口分布

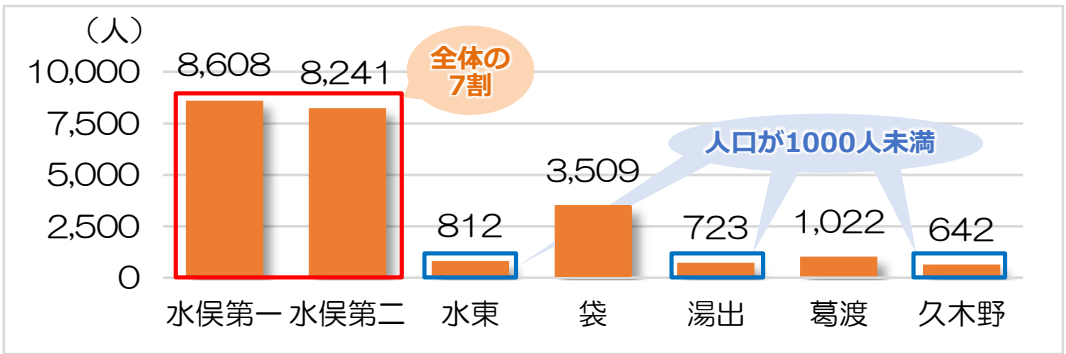


図 小学校区別の人口

2 機能の集積をあわせた対応

- 人口規模に応じる形で生活サービス施設も市街地部（水俣第一小学校区・第二小学校区）に集積しており、居住者数や施設状況に合わせて多様な公共交通の組合せによる持続可能なネットワークを考えていく必要がある。

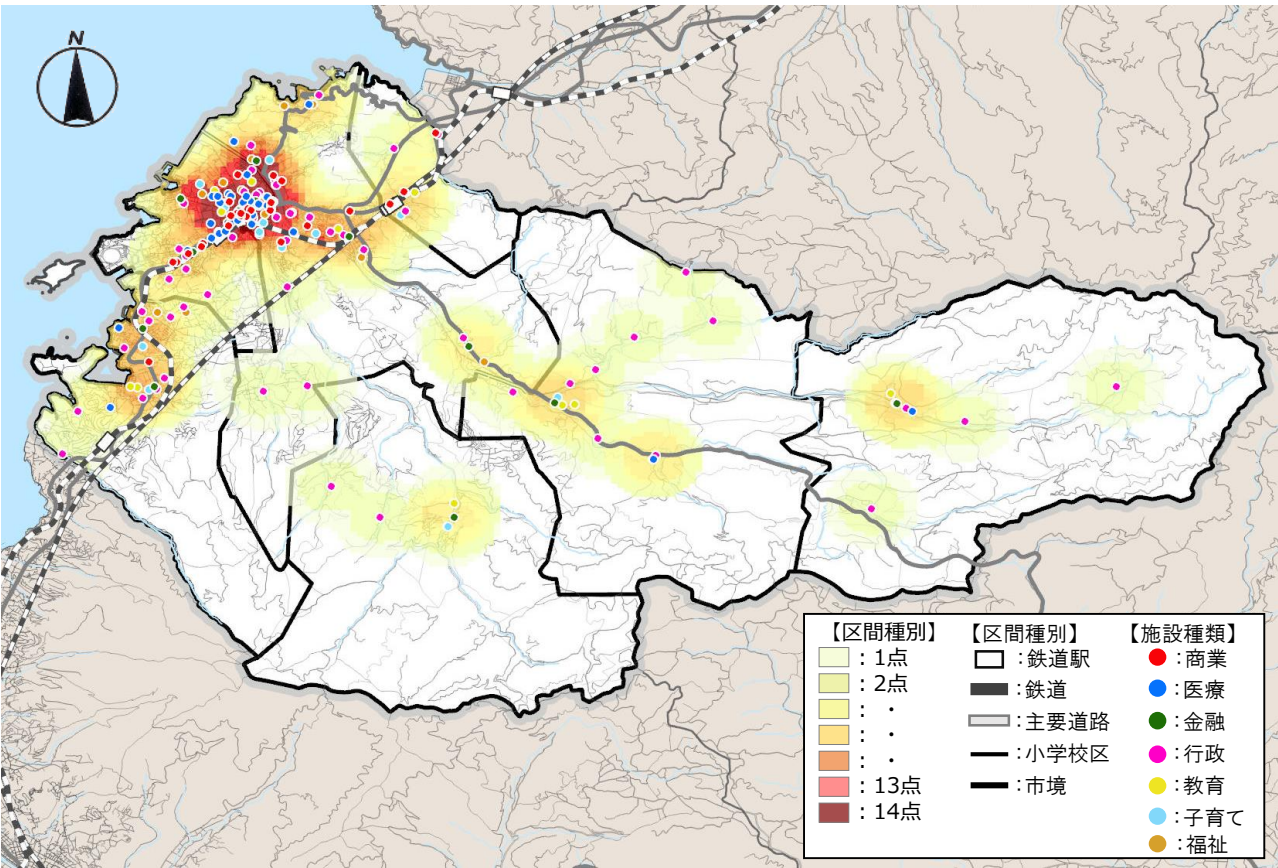


図 機能集積の度合い

3 公共交通の運行状況

(1) 路線バスの運行状況

- 路線バスは八代方面の産交バス(株)、出水・鹿児島空港方面の南国交通(株)が運行を行っており、市外への移動手段としての地域間幹線交通の役割を担っている。

表 運行概要

分類	運行路線	方面	キロ呈	運行便数	
				平日	休日
産交バス	水俣産交～道の駅たのうら	道の駅たのうら方面	37.4km	7便	6便
		水俣産交方面	37.1km	8便	6便
	水俣港～つなぎ温泉前	つなぎ温泉方面	11.6 km	2便	2便
		水俣港方面	12.6 km	1便	1便
	水俣産交～つなぎ温泉前	つなぎ温泉方面	11.6km	1便	1便
		水俣産交方面	11.6km	2便	2便
南国交通	水俣～出水本町・佐潟口	出水・佐潟口方面	43.0 km	12便	10便
		水俣方面	43.0 km	12便	10便
	鹿児島空港連絡バス	鹿児島空港方面	76.1 km	4便	4便
		水俣駅方面		4便	4便

(2) みなくるバス・乗合タクシーの運行状況

- みなくるバスは赤バス、黄バス、青バス、おれんじバスの4種類で計8路線が運行しており、年間利用者は令和2年から令和5年にて8万人前後で推移している。市の財政負担額は燃料費等の高騰により増加傾向である。
- 乗合タクシーは、計8路線が運行しており、市民の日常的な移動手段としての役割を担っているものの、乗合タクシーの利用者数は年々減少しており、令和5年は令和2年と比べて1,000人以上の減少である。市の財政負担額は令和3年より700万円台で推移している。

表 運行概要

分類	運行路線		キロ呈	運行便数	
				平日	休日
みなくるバス	赤バス	木臼野(茂川)・梅戸港線	28.3km	2.0往復	1.5往復
	黄バス	大川線	24.8km	4.0往復	3.0往復
		中屋敷線	17.0km	3.0往復	2.0往復
		葛彩館線	12.3km	3.0往復	1.0往復
	青バス	湯の児線	7.6km	5.5往復	3.0往復
	おれんじバス	茂道～頭石・招川内線(頭石発)	25.0km	2.0往復	2.0往復
		茂道～頭石・招川内線	25.4km	3.0往復	2.0往復
		茂道～頭石・招川内線(頭石経由)	30.6km	1.0往復	0往復
分類	路線名	運行曜日	キロ呈	平日	休日
乗合タクシー	猿郷線	平日：月曜～金曜 休日：なし	4.9km	2.5往復	—
	大迫・牧ノ内線※	平日：毎週月曜日 休日：なし	8.8km	1.5往復	—
	市木線	平日：毎週火曜日 休日：なし	24.5km	1.5往復	—
	寺床・寒川線	平日：毎週火曜日 休日：なし	27.2km	1.5往復	—
	小津奈木線※	平日：毎週水曜日 休日：なし	14.0km	1.5往復	—
	鬼岳線	平日：毎週水曜日 休日：なし	18.6km	1.5往復	—
	坂口・八ノ窪線※	平日：毎週金曜日 休日：なし	9.1km	1.5往復	—
	神川・湯堂線※	平日：毎週金曜日 休日：なし	12.7km	1.5往復	—

※運行形態が予約型定時定路線であり、予約があった場合に、決まった時間に決まったルートを行走する

●利用者数

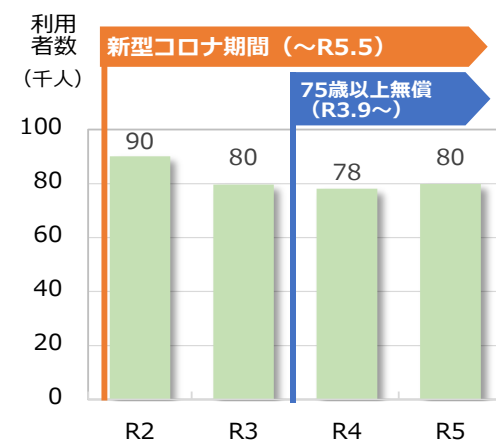


図 利用者推移※（みなくるバス）

※各年度は10月から9月で集計
※新型コロナ期間は第5類感染症移行まで

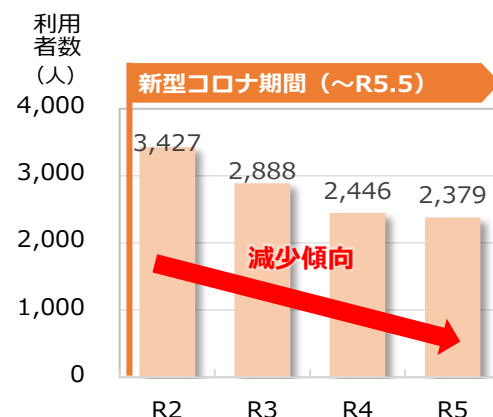


図 利用者推移※（乗合タクシー）

※各年度は10月から9月で集計
※新型コロナ期間は第5類感染症移行まで

●財政負担額

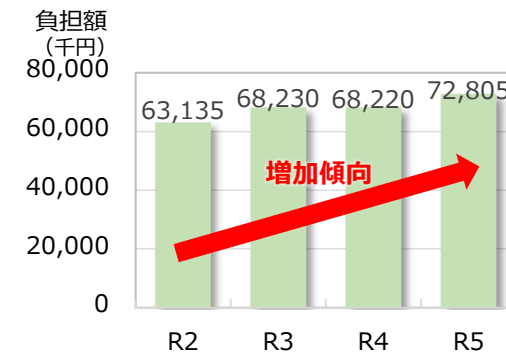


図 市負担額の推移※（みなくるバス）

※各年度は10月から9月で集計



図 市負担額の推移※（乗合タクシー）

※各年度は4月から3月で集計

(3) 鉄道の運行状況

- 鉄道駅は、JR九州新幹線及び肥薩おれんじ鉄道の新水俣駅、肥薩おれんじ鉄道の水俣駅と袋駅の3駅が立地している。
- 肥薩おれんじ鉄道は、八代～川内間を運行するとともに観光列車「おれんじ食堂」を運行している。

表 運行概要

分類	区間	運行事業者	行き先	運行便数	
				平日	休日
JR九州新幹線	博多～鹿児島中央	九州旅客鉄道(株)	博多・熊本方面	24便	26便
			鹿児島中央方面	20便	22便
肥薩おれんじ鉄道	八代～川内	肥薩おれんじ鉄道(株)	八代方面	19便	21便
			川内方面	19便	21便

(4) タクシーの運行状況

- タクシーは計4者の事業者が運行し、通院や買い物など市民の日常的な移動手段を担っている。
- 水俣市が運行する乗合タクシーは、4者の事業者で共同運行を行っている。

表 運行概要

事業者名	拠点	内容	料金
(資)君島タクシー	営業所（水俣市）	一般乗用旅客運送事業	距離制・時間制
(有)水俣タクシー	営業所（水俣市）		
(有)大洋タクシー	営業所（水俣市）		
未来交通タクシー	営業所（水俣市）		

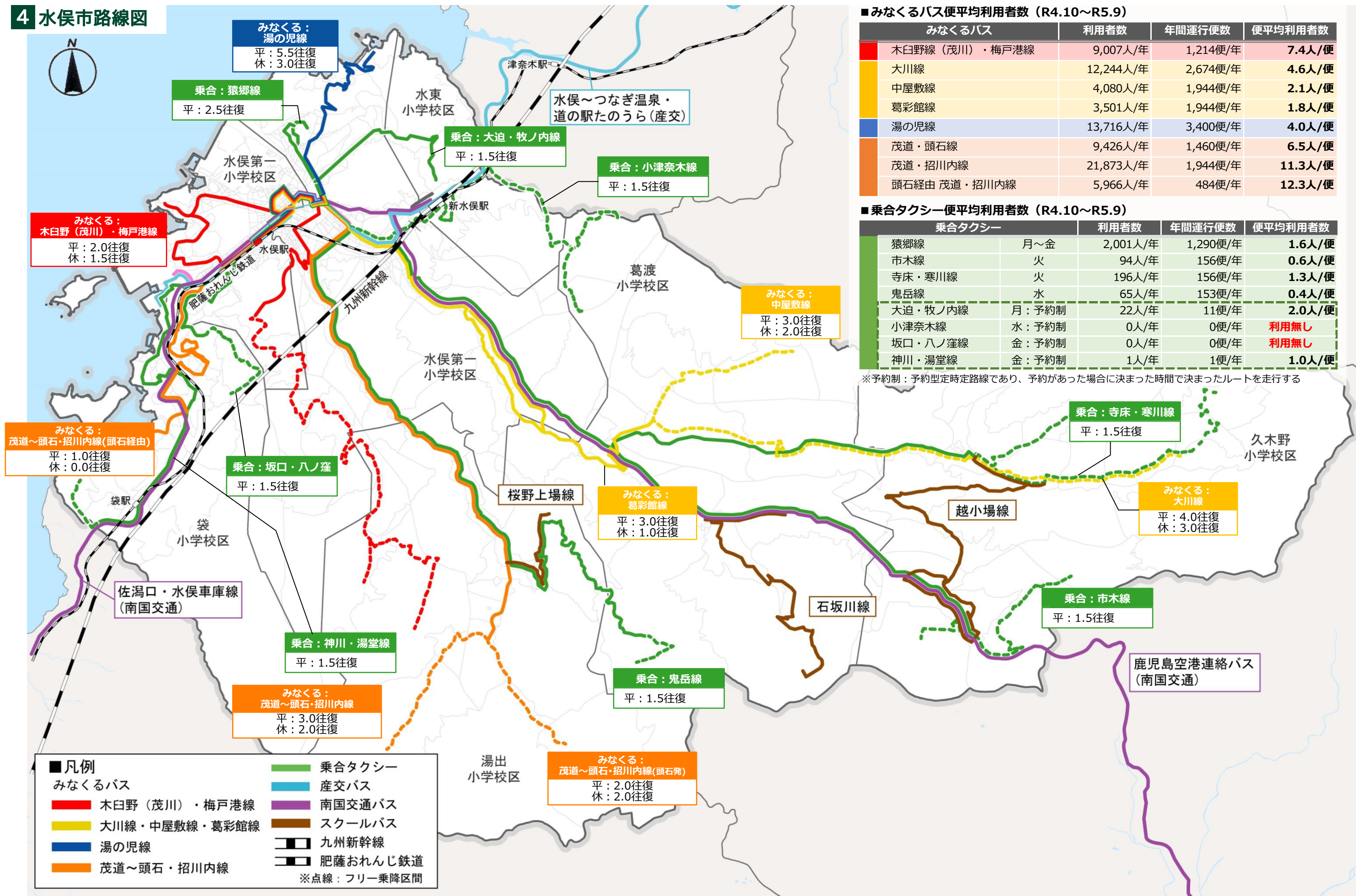
(5) その他交通手段の状況

- スクールバスの3路線が運行されており、小学生の便と中学生の便の計8便が運航している。
- 車両は15人乗りと29人乗りの2種類である。

表 運行概要

運行路線	運行エリア	運行便数	料金
越小場線	久木野小校区	3便	無料
桜野上場線	湯出小校区	2便	
石坂川線	葛渡小・緑東中学校区	3便	

4 水俣市路線図



1 調査概要

- 水俣市民の日常生活行動の特定、公共交通の利用見込みが高いターゲット層の分析を行うため、水俣市民を対象とし、WEB（水俣市公式ライン、広報誌等）や集会の配布（水俣高校、地域リビング等）によるアンケート調査を実施した。



図 広報みなまた

表 回収票数

居住小学校区	票数
水俣第一小学校区	189票
水俣第二小学校	145票
水東小学校	7票
袋小学校	52票
湯出小学校	9票
葛渡小学校	24票
久木野小学校	22票
不明	2票
合計	450票

2 市民移動の特性

(1) 自動車に依存したライフスタイルの実態（65歳以上）

- 高齢者の自動車の利用状況は、「自分で自動車等を運転している（50.0%）」と回答した方が最も多く、小学校区別では、久木野小学校区で自らの移動手段を持たない方の割合が高い。
- 免許保有者の約半数が「返納する意思はない」と回答しており、返納しない理由として「運転に不安があるが生活のために必要」と回答した方が約3割存在している。

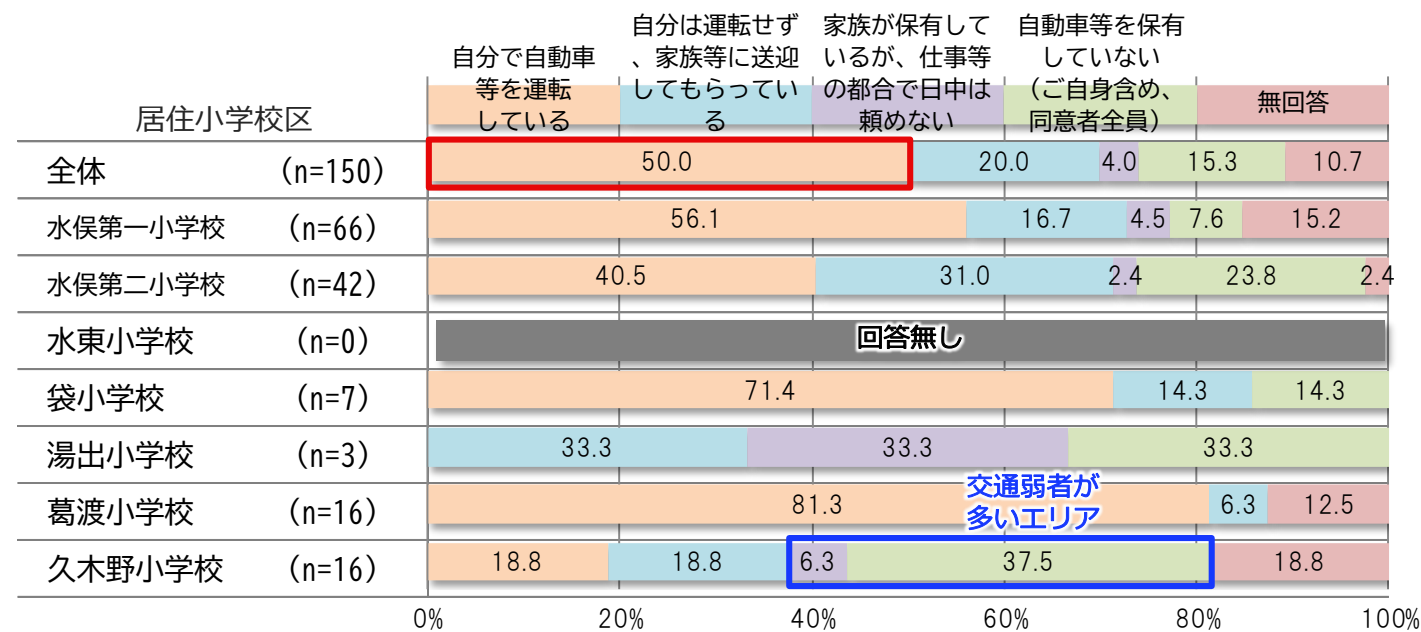


図 自家用車の利用状況（65歳以上）

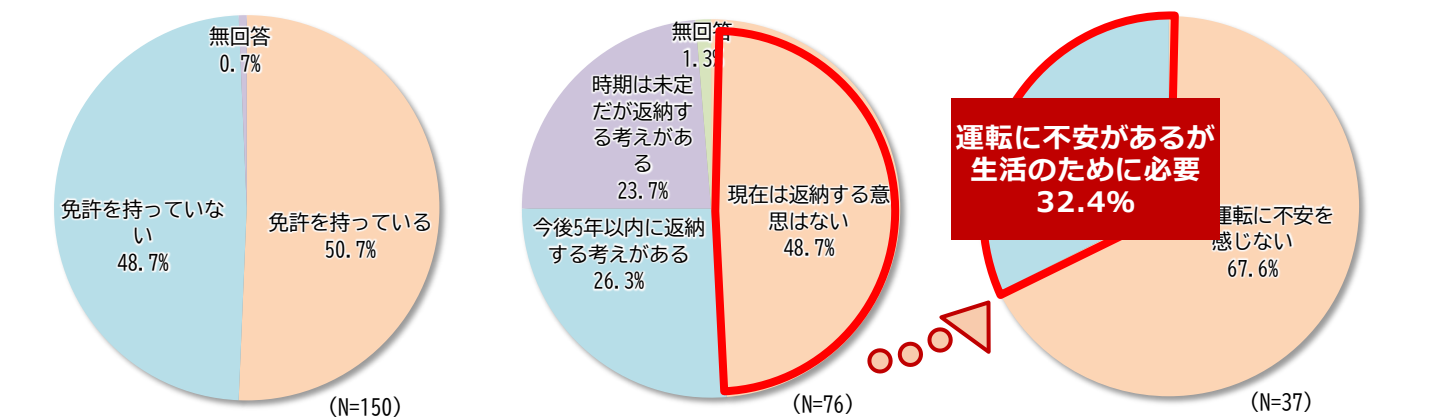


図 運転免許の保有（65歳以上）

図 運転免許の返納意思（65歳以上）

図 免許返納しない理由（65歳以上）

➤ 運転に不安がある高齢者に対して、公共交通への転換促進が重要

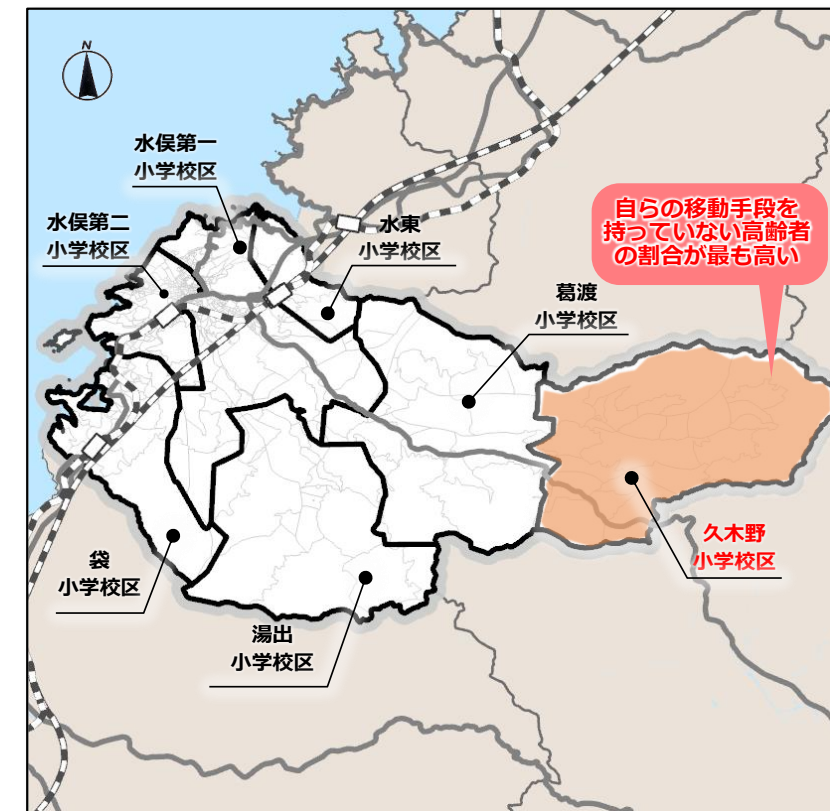


図 小学校区（自家用車の利用状況：65歳以上）

(2) 外出時の移動に不安・不満を感じていること

- 外出時の移動での不安・不満については「不安や不満を感じていない」が多いが、「将来運転ができなくなった時が不安」や「バスや乗合タクシーが不便だと感じる」との不安に関する割合も高い。

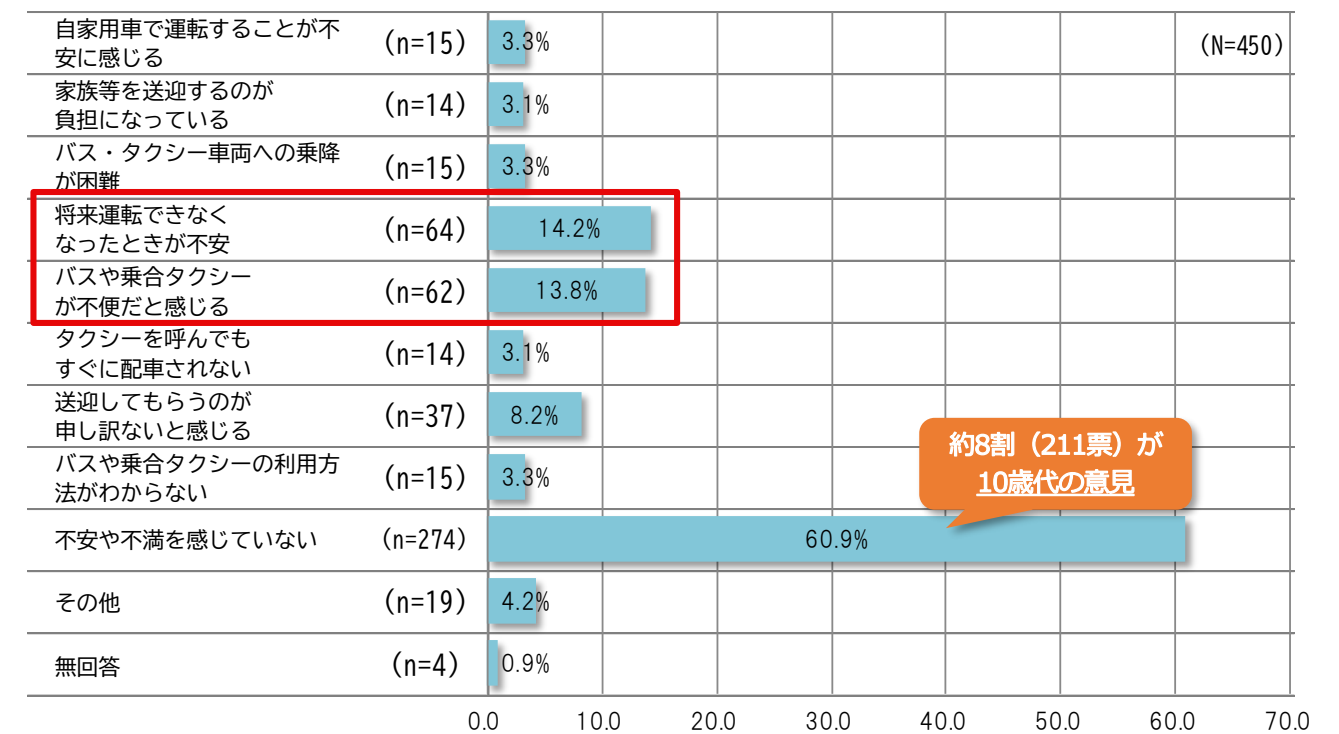


図 外出時の移動に不安・不満を感じていること

➤ 高齢者や交通不便者等に対する将来的に持続可能な移動手段の確保・維持

3 公共交通の利用状況

(1) 鉄道（肥薩おれんじ鉄道）

- 市内の地域間幹線交通として八代市から薩摩川内市の区間を運行し、市内に3駅が位置している。
- 市民アンケートにて「利用する」との回答が18.0%であり、利用者の多くは10歳代（高校生など）である。

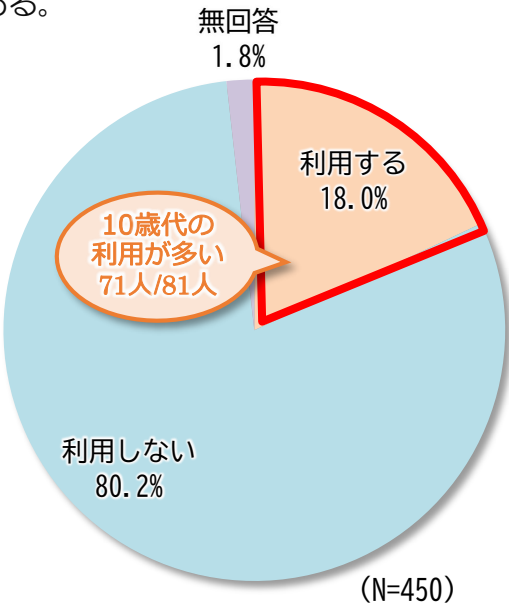


図 利用状況

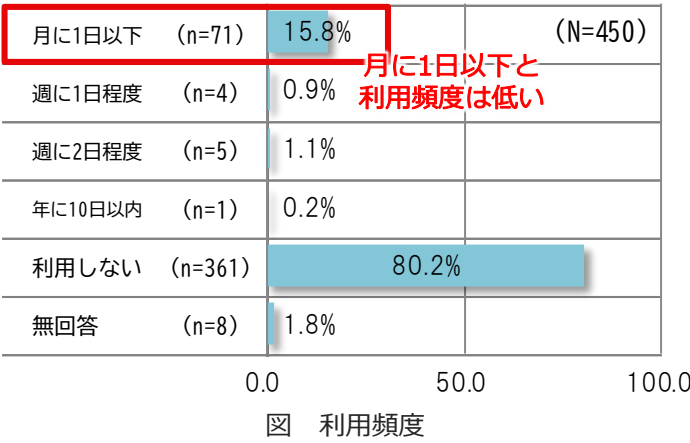


図 利用頻度

交通弱者（特に10歳代）の移動手段として維持確保を図るための更なる利用者増加

(2) 新幹線

- 九州新幹線が水俣市内を運行しており、新水俣駅にて停車する。
- 「利用する」の回答は8.0%と非常に少なく、利用頻度は「週に1日以下」が最も多い。

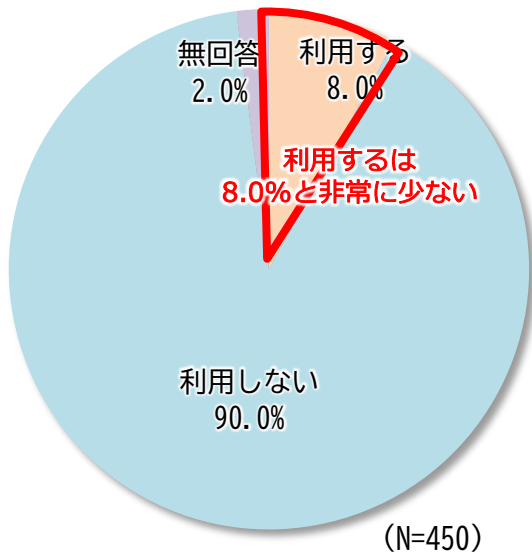


図 利用状況

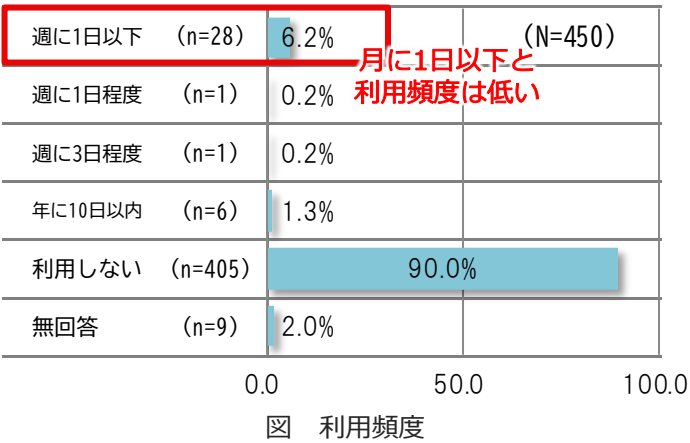


図 利用頻度

市外からの来訪者の向け、本市の観光事業と連携した取組により、利用者の増加

(3) 路線バス（産交バス）

- 市内の地域間幹線交通として、「道の駅たのうら線」、「水俣港・つなぎ温泉前線」、「つなぎ温泉前線」の3路線が市内を運行している。
- 市民アンケートにて「利用する」との回答が3.1%と非常に少ない。

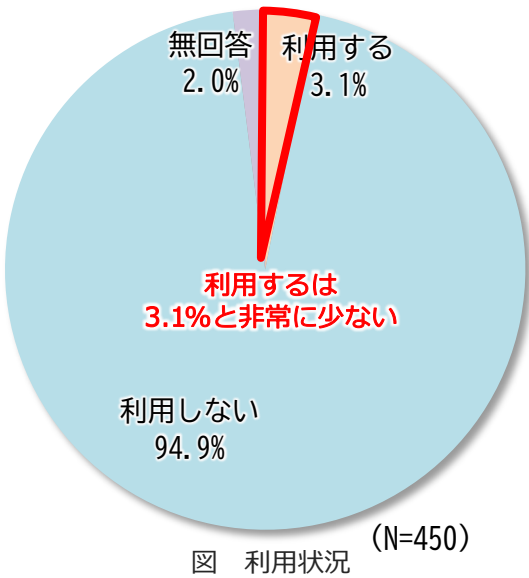


図 利用状況

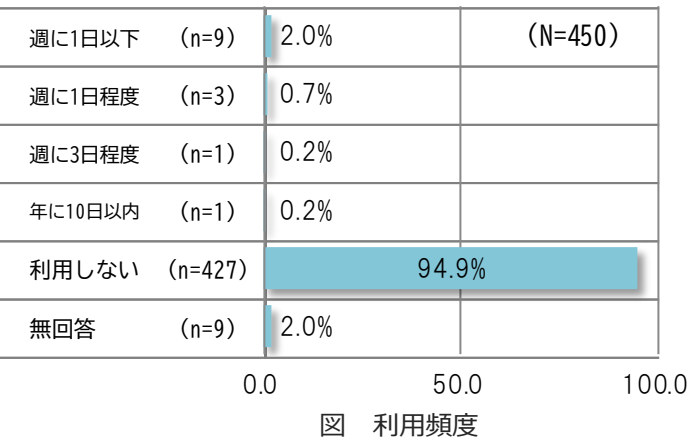


図 利用頻度

地域間幹線交通の維持確保に向け、利用者の増加検討

(4) 路線バス（南国交通）

- 水俣車庫～佐湯車庫（阿久根市）を結ぶ路線が運行している。
- 利用者は4.7%と非常に少なく、利用頻度も「週に1日以下」である。

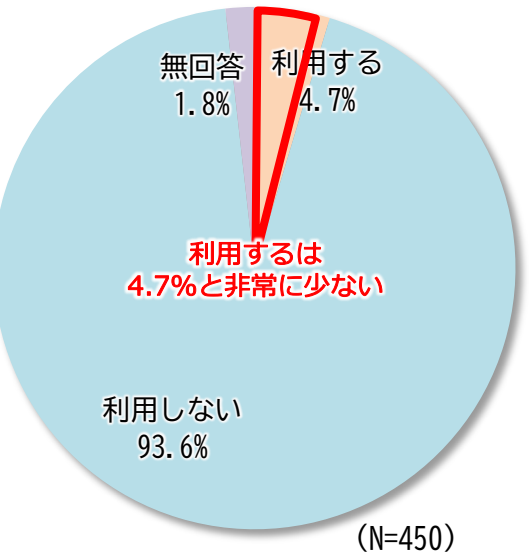


図 利用状況

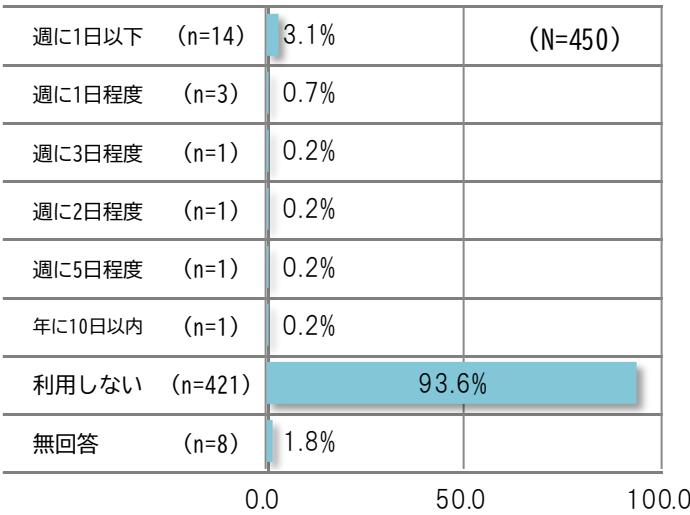
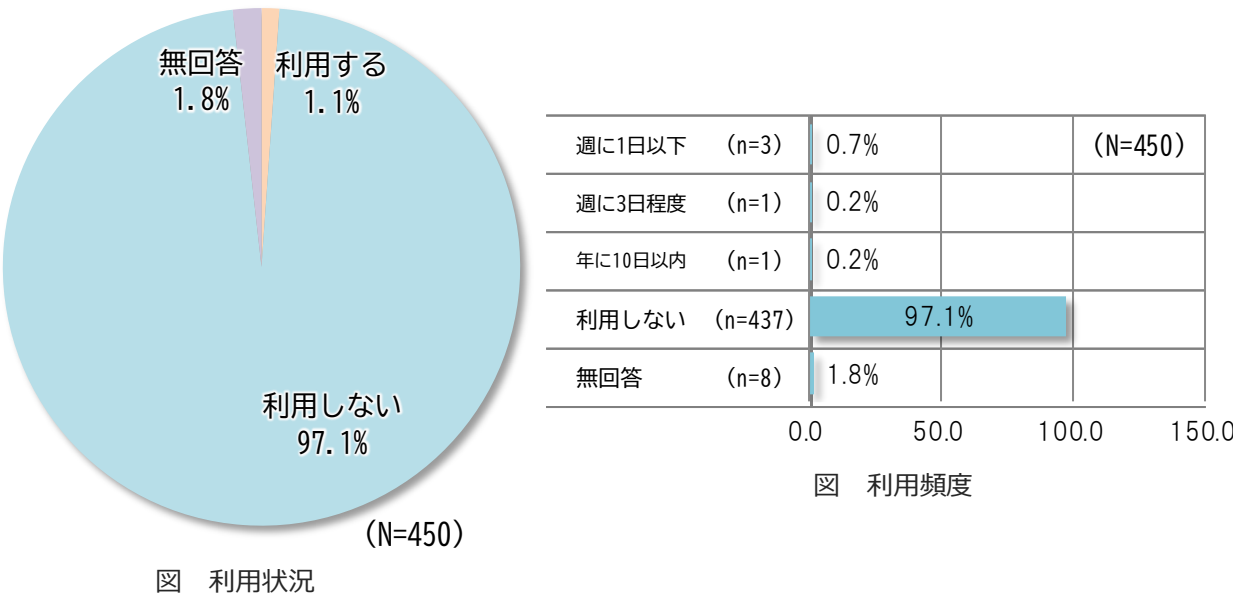


図 利用頻度

地域間幹線交通の維持確保に向け、利用者の増加検討

(5) 空港バス（南国交通）

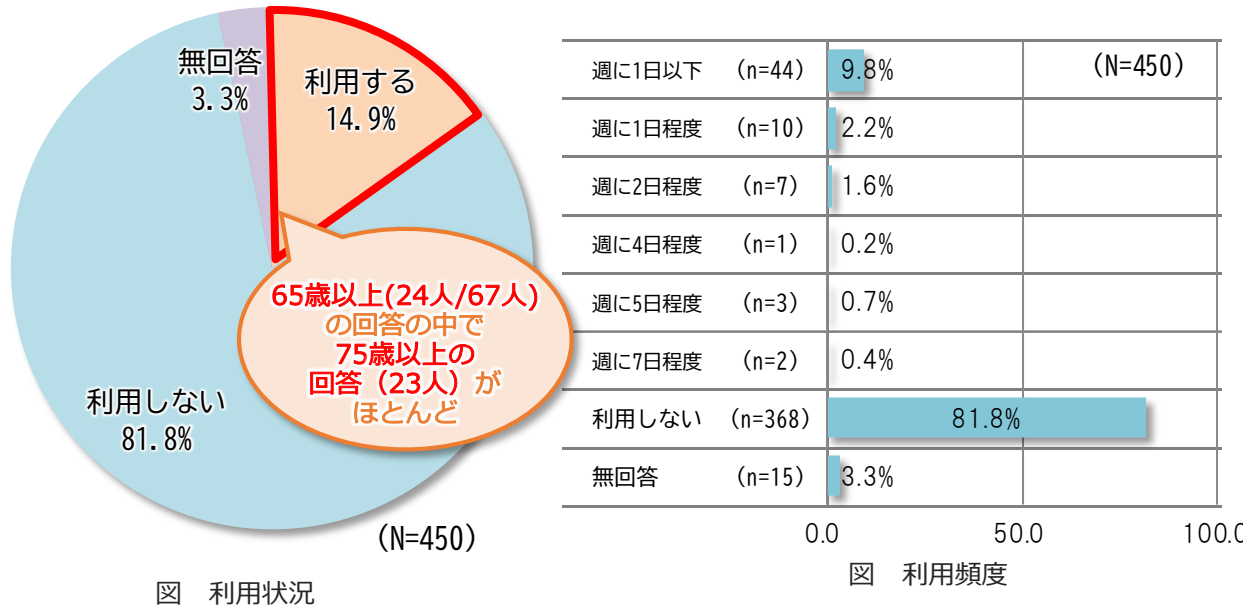
- 水俣市内と鹿児島空港を結ぶ路線で、市街地から葛渡地区を経由し鹿児島空港へ向かう路線である。
- 利用状況は「利用する」が1.1%と非常に利用が少ない路線である。



地域間幹線交通の維持確保に向け、利用者の増加検討

(6) みなくるバス

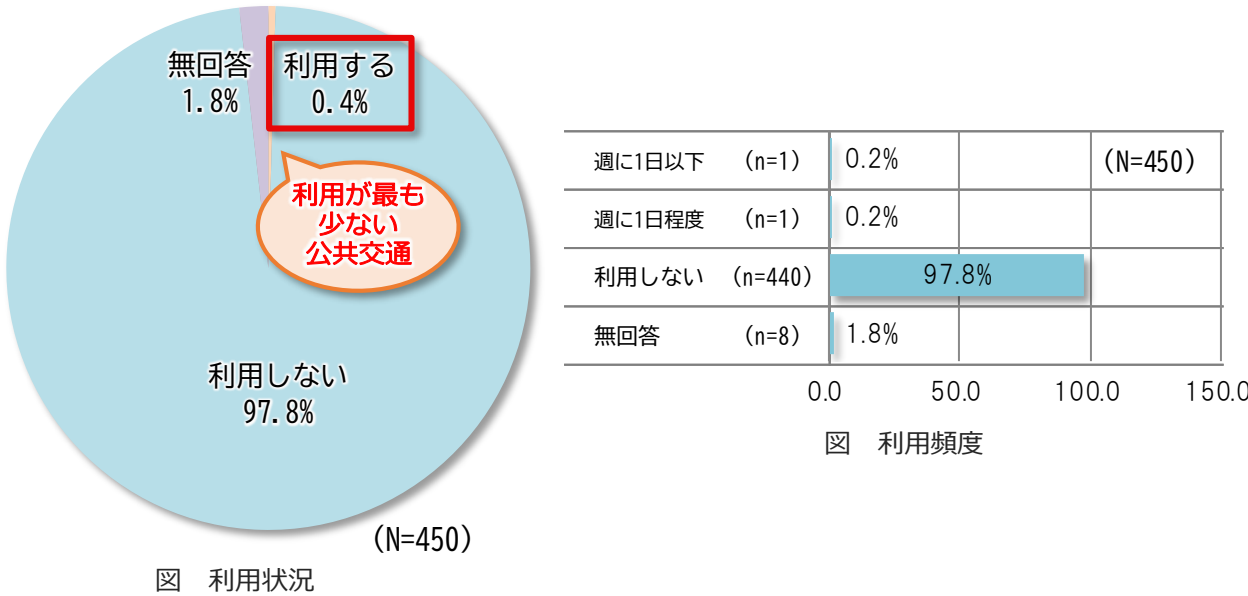
- 市街地と各地区を結ぶ4路線が運行しており、主要な地域公共交通としての役割を担っている。75歳以上は無料であるため、高齢者にとって利用しやすい移動手段である。
- 「利用する」と回答した高齢者（65歳以上）のうち、75歳以上が多い。



主要な地域内交通の維持確保に向け、利用が少ない年齢層（20代～50代）の取り込み

(7) 乗合タクシー

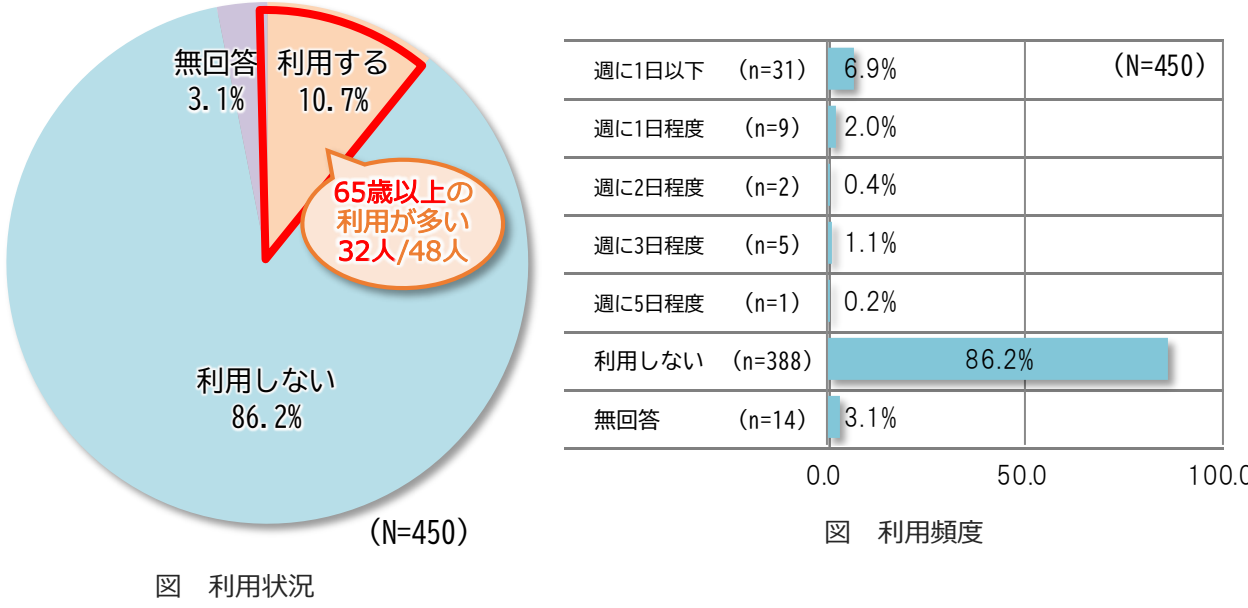
- みなくるバスを補完する役割を担い、市内で8路線が運行している。定時定路線が4路線であり、残り4路線は予約制である。
- 本アンケートでは、「利用する」が0.4%と最も利用が少ない公共交通となる。



利用者増加に向けて、沿線地域の高齢者に向けた周知

(8) 一般タクシー

- 市内に営業所を置くタクシー事業者は4社である。
- 「利用する」と回答した方は10.7%であり、回答者の多くは65歳以上の高齢者である。



継続的な運営を図るための運転手の確保

4 公共交通の満足度

(1) 本市の公共交通の満足度

- 本市の公共交通に関する満足度に関しては、「どちらとも言えない（47.6%）」が最も多く、「満足（やや満足含む）」と回答した方は約30.7%、「不満足（やや不満足含む）」と回答した方は約18.6%となる。
- 「不満足（やや不満足）」の割合が高い地域は、「袋小学校区（23.1%）」であり、次いで「久木野小学校区（22.7%）」である。

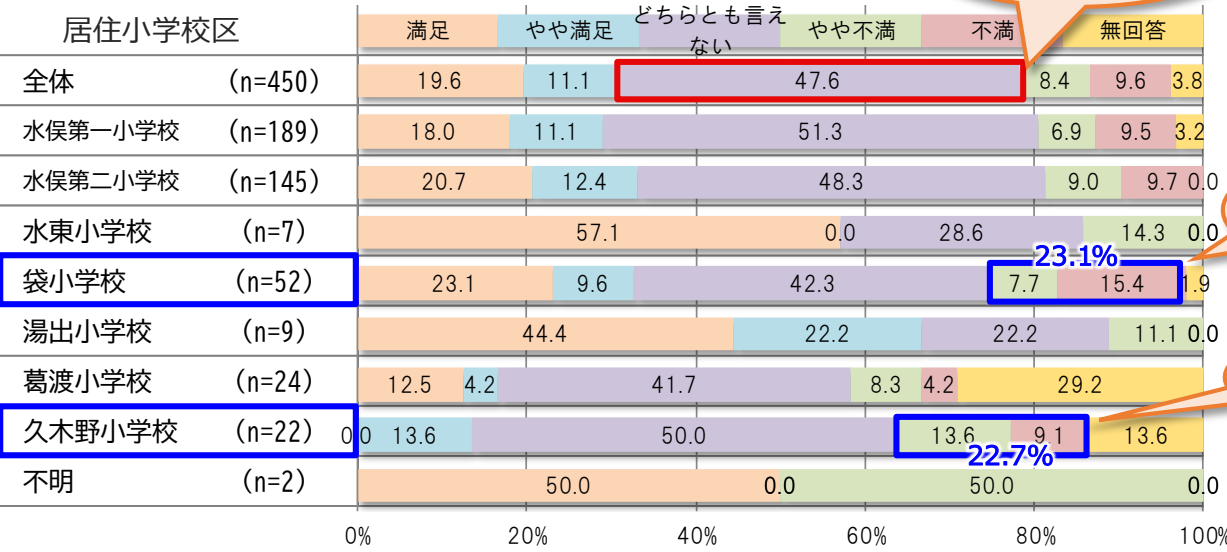


図 公共交通に関する満足度

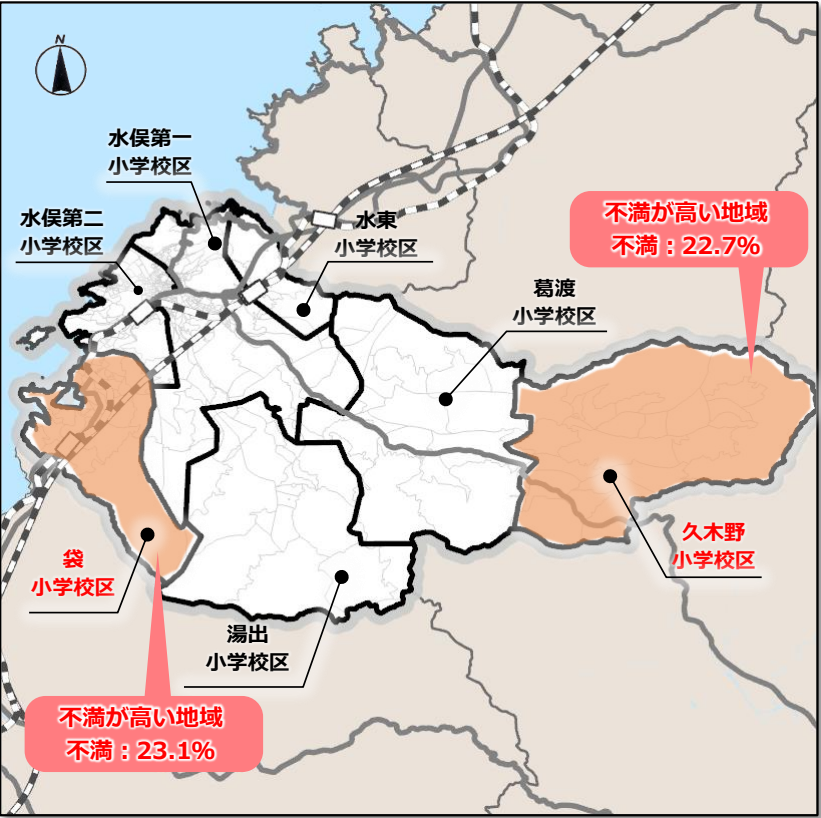


図 小学校区（公共交通に関する満足度）

(2) 本市の公共交通の不便さ

- 本市の公共交通の不便さは「不便だと感じたことがある」が30.9%であり、「不便だと感じない」と回答した方を上回る結果となった。
- 不便と感じた内容は「本数が少ない（79.9%）」が最多となり、次いで「自宅からバス停・駅が遠い（28.1%）」となる。

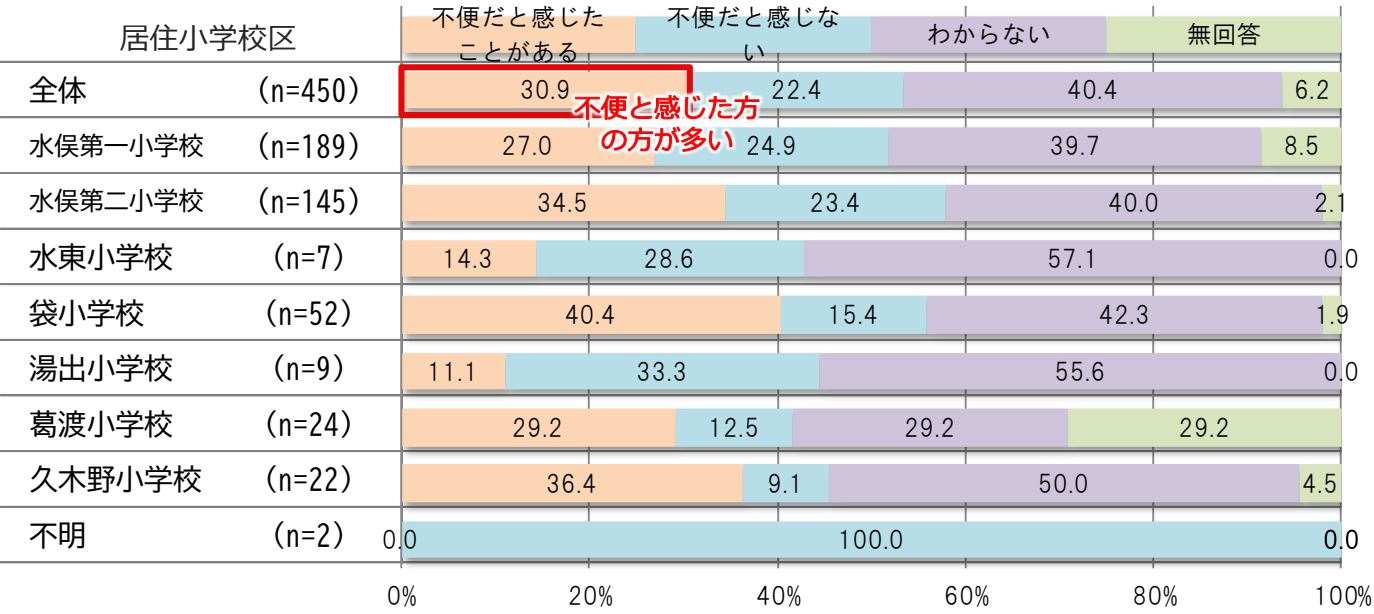


図 公共交通に関する不便さ

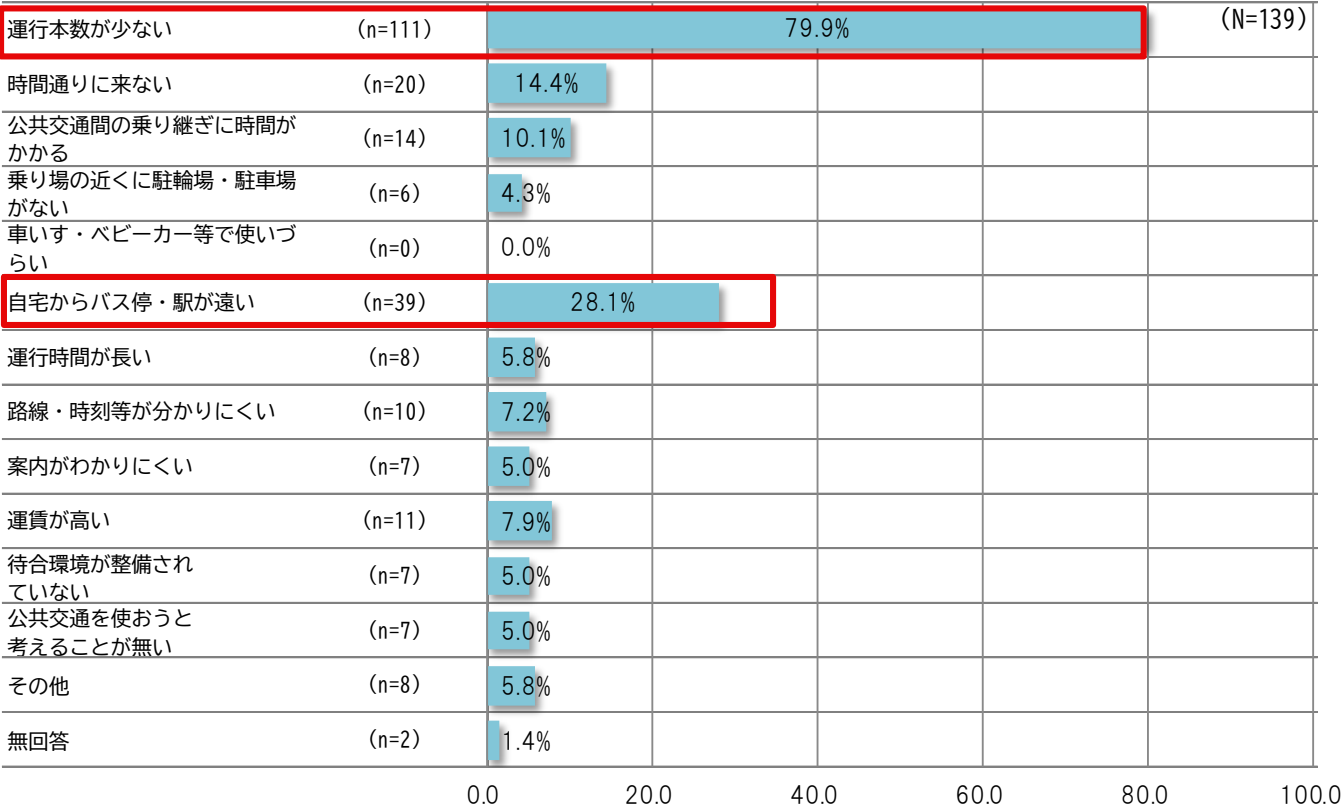
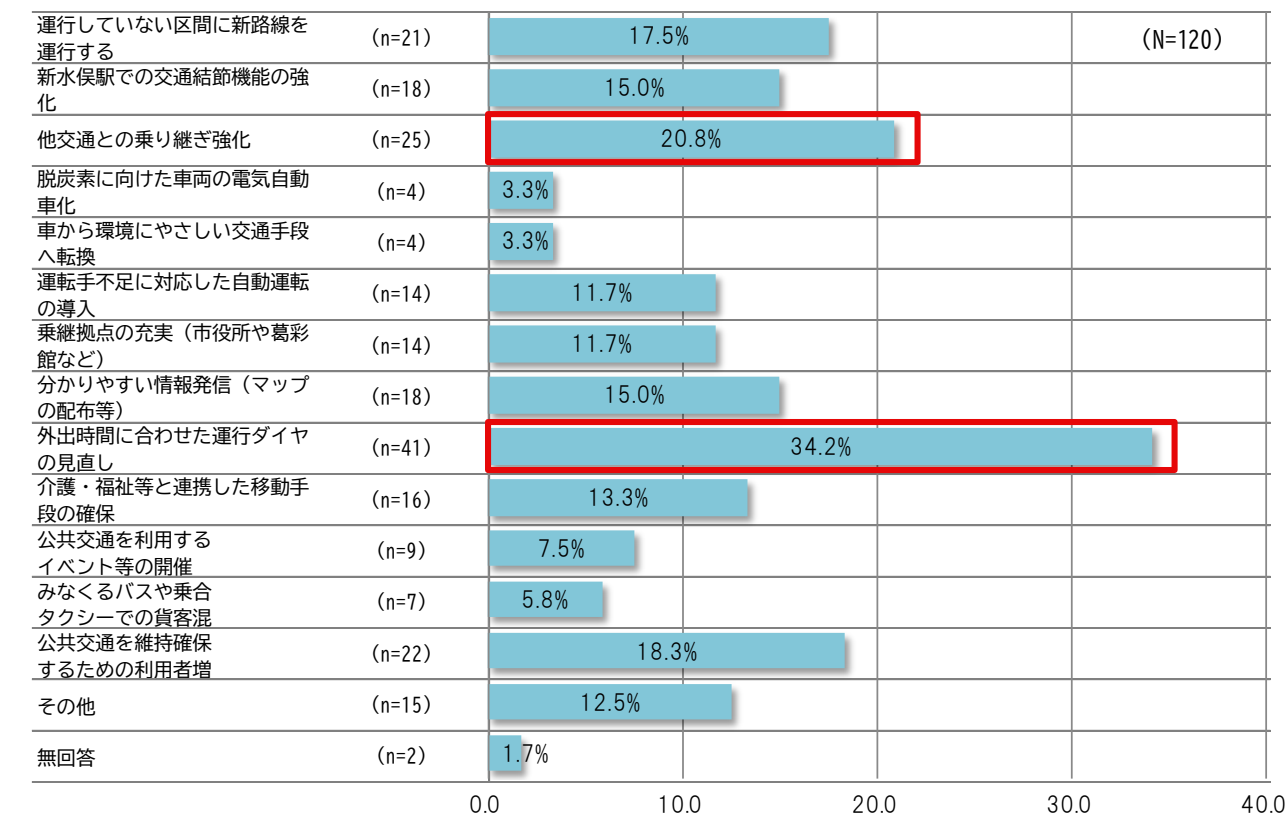
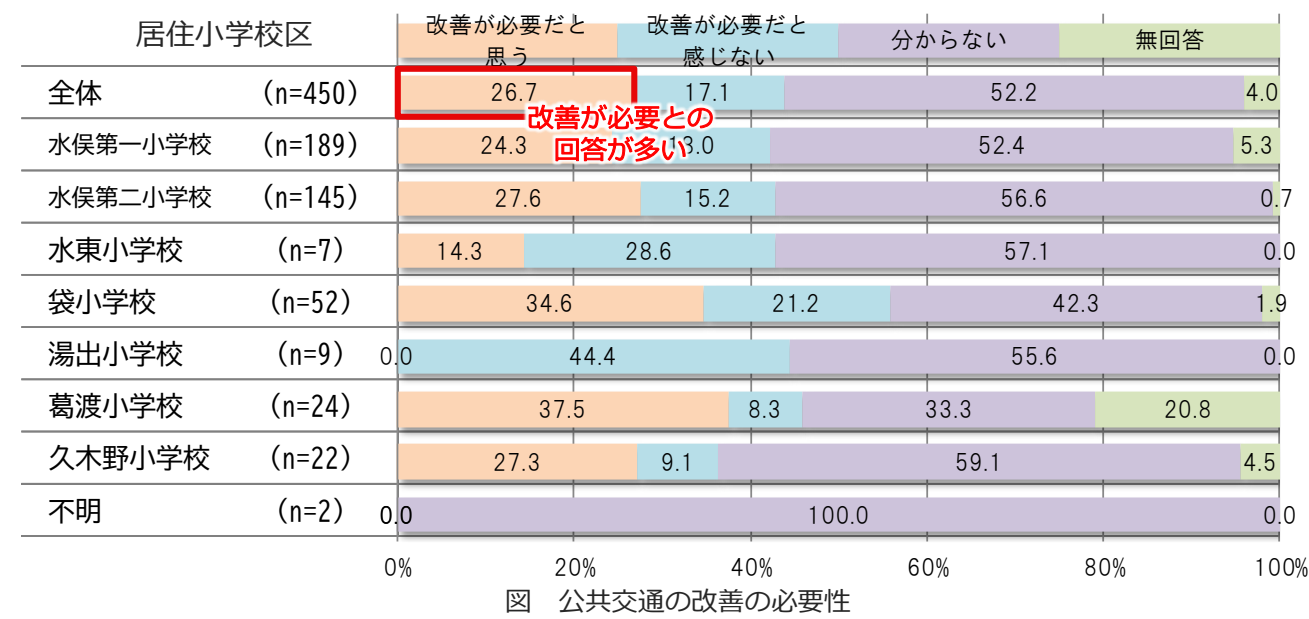


図 不便と感じた内容

(3) 本市の公共交通の改善の必要性

- 公共交通の改善の必要性については「改善が必要だと思う」が26.7%と「改善が必要だと感じない（17.1%）」を上回る結果となった。
- 改善内容は「外出時間に合わせた運行ダイヤの見直し（34.2%）」が最多となり、次いで「他交通との乗り継ぎ強化（20.8%）」となる。



(4) 公共交通に関する意見

- 公共交通に関する意見を下表に整理した。運行本数や運行効率化などのご意見が確認された。

表 公共交通に関する自由意見

自由記述	年齢	居住校区
■運行本数に関する意見		
バスや電車の本数を増やしてほしい。	15	袋小学校
回数を増やしてほしい。	16	水俣第二小学校
運行本数を増やす。	16	袋小学校
自分で車の運転ができない人は市街地に住むようにする。	70	袋小学校
本数が少ないため、時間的な出席等(集会)ができない。	85	水俣第二小学校
週1回の定期便では使いにくい。自分の利用に合わせてタクシーの補助金を出して欲しい。	73	水俣第一小学校
■運行効率化に関する意見		
みなくなるバスも時間帯によっては乗客がほとんどいないようなので、乗客が少ない時間帯は小さい車にして、回数を増やすとありがたいと思う。	63	水俣第一小学校
デイサービスなど個人個人を送迎するのではなく、なるべくまとめて送迎をすることが今後の公共交通の維持につながる。	82	葛渡小学校
■利便性向上に関する意見		
交通の安全を意識し、その次に利便性を意識してほしい。	15	水俣第一小学校
みなくなるバスは水俣市内のみの運行なので、隣町にまたがる路線の運行が出来たら利便性も高まると思う。	48	水俣第一小学校
■自動運転に関する意見		
レベル4の自動運転に対応したナビヤ社製のマイクロバス「エヴォ」。高齢の方を見ていると、水光社から帰る高齢の方は日差しが強い、日陰や待合室がない場所からみなくなるバスに乗られており熱中症になるのではと心配している。数ヶ月後に袋地区に移住予定ですが、みなくなるバスは県境の方まで来ないので、歳をとった時心配だ。どこかの県が、自動運転の乗り物を実証されていたので、その様なものが水俣市にも運営されることを願う。	46	水俣第二小学校
■待合環境に関する意見		
バス(待合室)に椅子と屋根が欲しい。	81	水俣第二小学校
■その他		
民間業者がサービスを提供することが難しい場合、公共の運営でできるのでしょうか。	42	水俣第一小学校
水俣の人口増やし、そして交通機関を使う人を増やしていきたい。	15	水俣第二小学校
カーブミラーを増やしてほしい。	18	水俣第一小学校
交通マナーの呼びかけ。	17	葛渡小学校
公共交通のテーマから外れますが、水俣インター降り口の問題をどうにかしてほしい。車線が国道で一つになる問題である。	48	水俣第二小学校
梅戸～明神間の道路を広くしてほしい。	88	水俣第二小学校
地域の班などで話し合い、共同で利用しあえるような、地域中心の運行手段ができればとても幸せである。	79	水俣第一小学校
必要な時に利用しやすい交通を考えてほしい。定期的に運行するのではなく、タクシーみたいに利用できればいいと思います。お客が乗っていない、または少人数のバスを運行するのはどうにか改善してほしい。乗合タクシーと充実してほしい。	73	葛渡小学校
みなくなるバスの運行ルートを見直してほしい。自宅から病院まで1時間かかる。	81	久木野小学校
高齢者が外出し易い環境にしてほしい。	86	水俣第一小学校

5 市民の生活行動

(1) 通勤・通学の生活行動分析（全年齢）

目的別の生活行動に応じた公共交通サービスの提供・充実が重要

- 水俣高校等が位置する水俣第二小学校区への通勤・通学が90%以上と最も多く、次いで水俣第一小学校区の5.6%である。
- 通勤通学の出発時間は「8～9時台」が多く、帰宅時間は「20時以降」が多い。

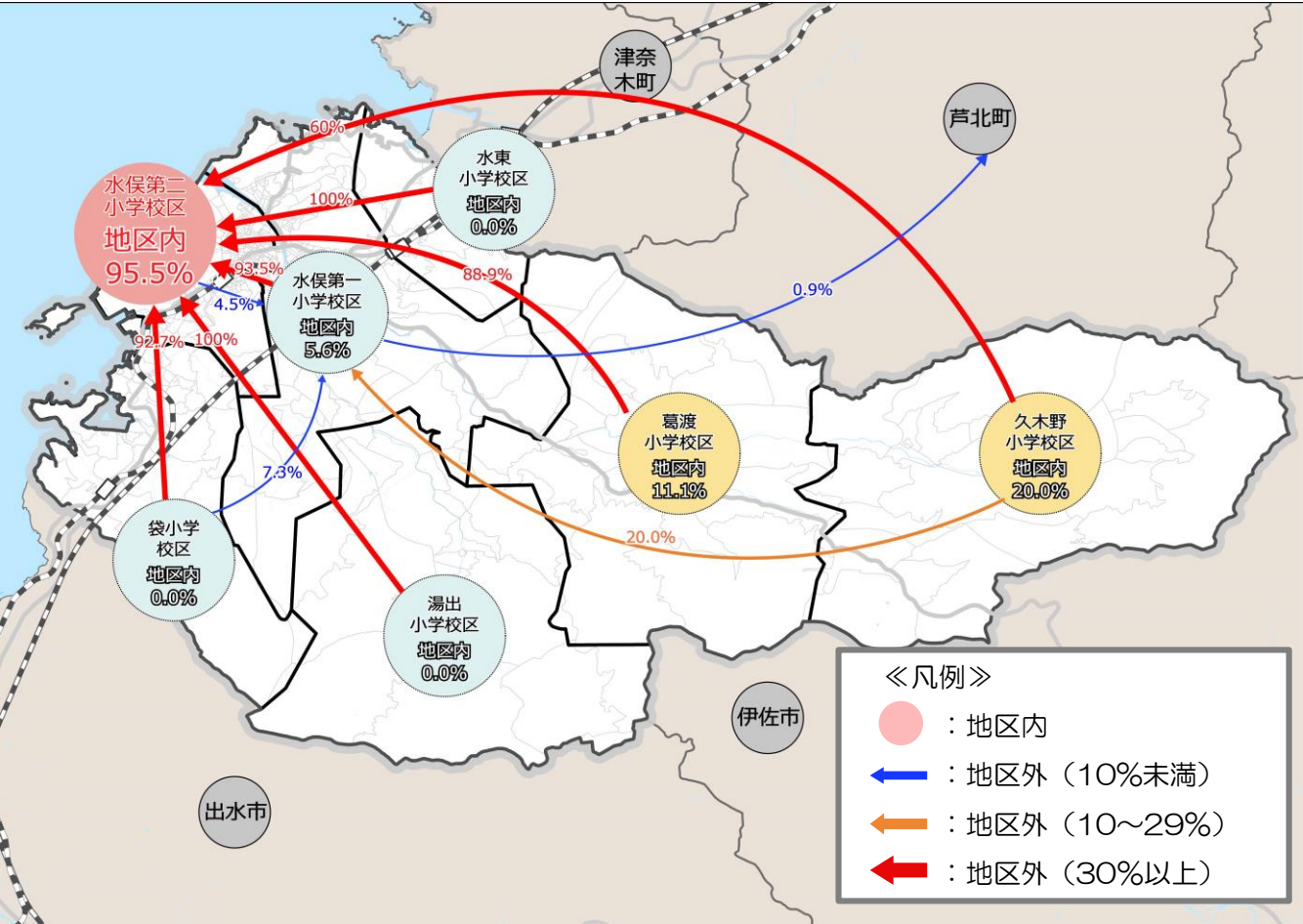
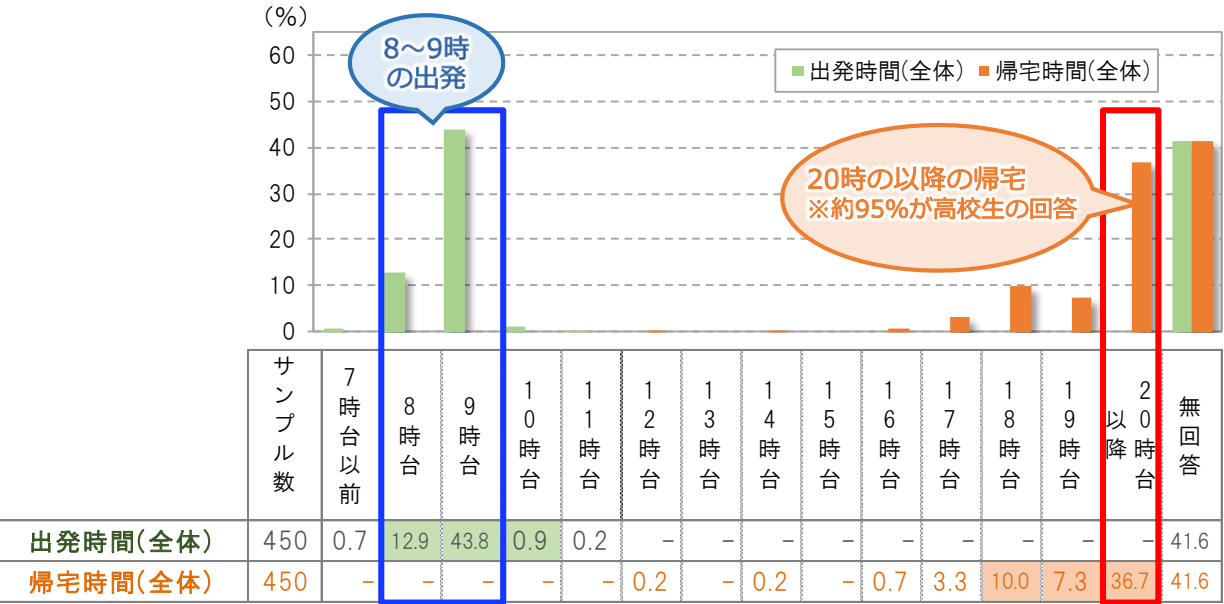


図 通勤通学の移動需要



※ハッチング箇所は上位3位を示す（時間不明・無回答を除く）

図 通勤通学の移動時間帯

(2) 買い物の生活行動分析（65歳以上）

目的別の生活行動に応じた公共交通サービスの提供・充実が重要

- 買い物では市民の6割以上が水俣第二小学校区への移動需要がみられ、次いで水俣第一小学校区に約2割の移動需要が確認された。
- 買い物時の出発時間は、「10時台」が最も多く、帰宅時間は「12時台」が多いため、概ね午前中の移動需要が高い。

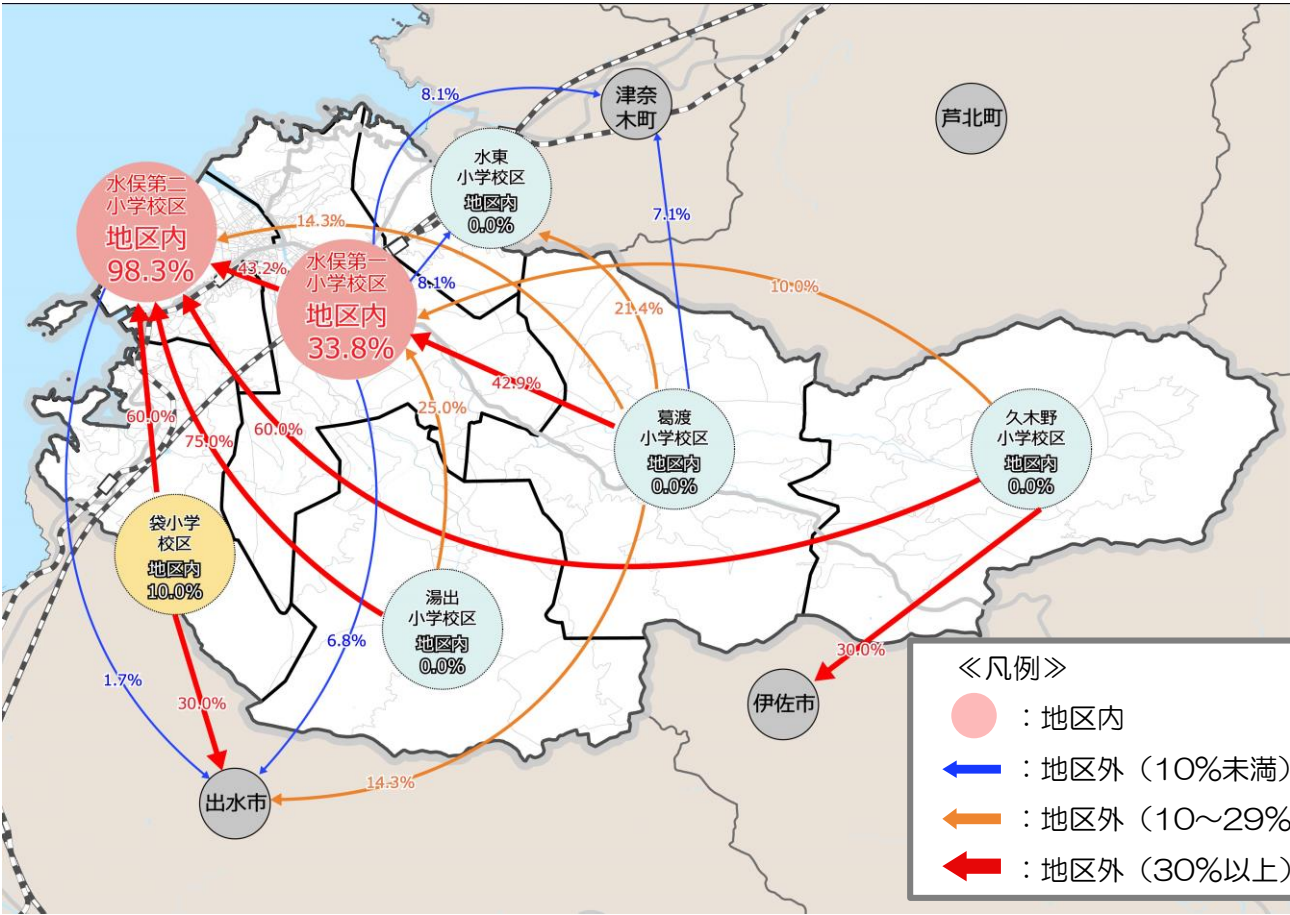
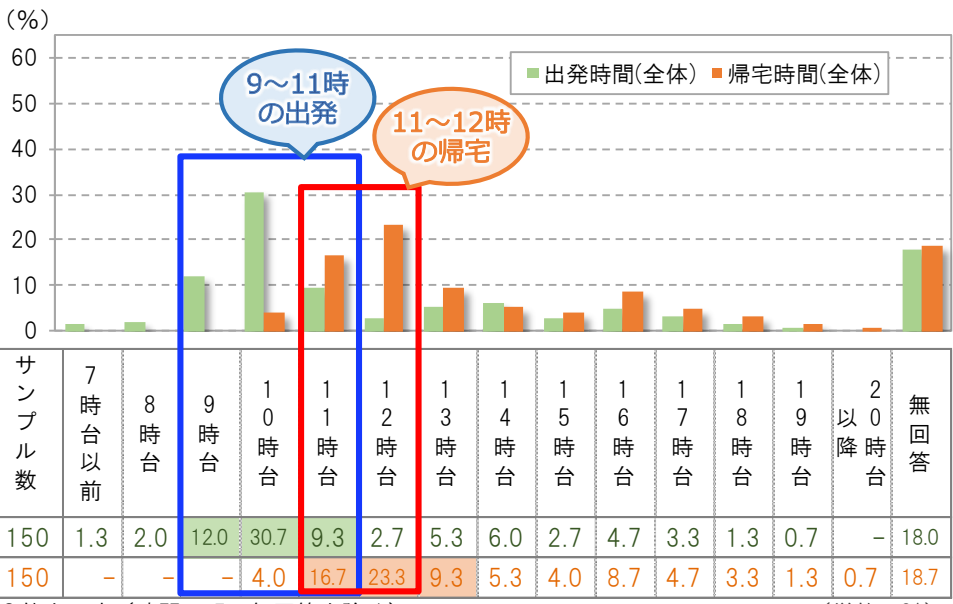


図 買物の移動需要



※ハッチング箇所は上位3位を示す（時間不明・無回答を除く）

図 買い物時の移動時間帯

表 買い物施設ランキング

順位	施設名	小学校区
1	水光社（本店）	水俣第二
2	ロッキー（水俣古賀店）	水俣第二
3	ロッキー（水俣南福寺店）	水俣第一
4	水光社（陣内店）	水俣第一
5	コスモス（水俣店）	水俣第二

(3) 通院の生活行動分析（65歳以上）

目的別の生活行動に応じた公共交通サービスの提供・充実が重要

- 通院では総合医療センター等が位置する水俣第一小学校区への移動需要（約6割）が最も高く、高齢者の9割以上が市内の病院に通院している。
- 通院の出発時間は「8～10時台」に集中しており、帰宅時間は「10～12時台」に集中しており、買い物と同様に概ね午前中の移動需要が高い。

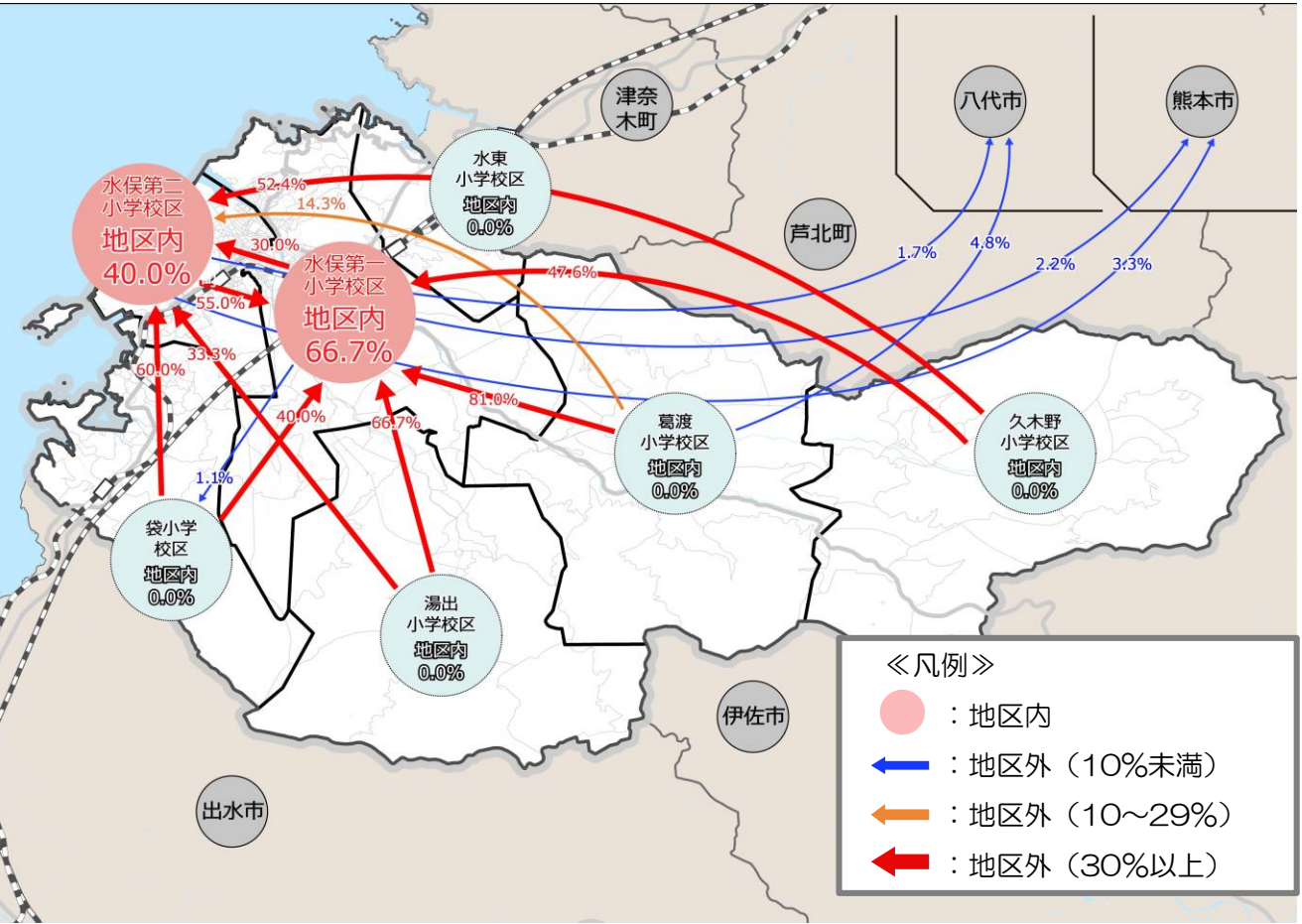
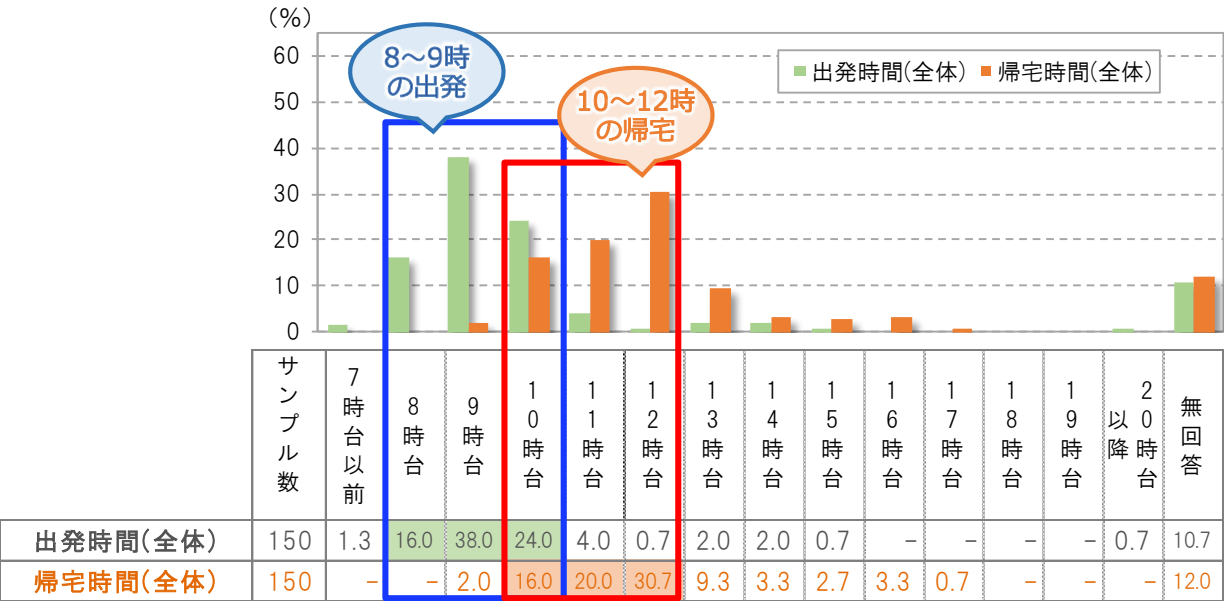


図 通院の移動需要



※ハッチング箇所は上位3位を示す（時間不明・無回答を除く）

（単位：%）

図 通院の移動時間帯

表 通院施設ランキング

順位	施設名	小学校区
1	国保水俣市立総合医療センター	水俣第一
2	岡部病院	水俣第二
3	市川内科クリニック	水俣第一
4	尾田胃腸科・内科	水俣第一
5	深水医院	水俣第一

6 将来の地域公共交通のあり方・市民の意向

(1) 公共交通の維持・利用向上のために、効果が高いと思う取組

- 効果が高い取組は10歳代の意見として「特に必要ない」が最も高いものの、「鉄道・バス等の乗り継ぎしやすい運行の改善」や「高齢者にとって使いやすい車両での運行」等の改善を求める声も挙がっている。

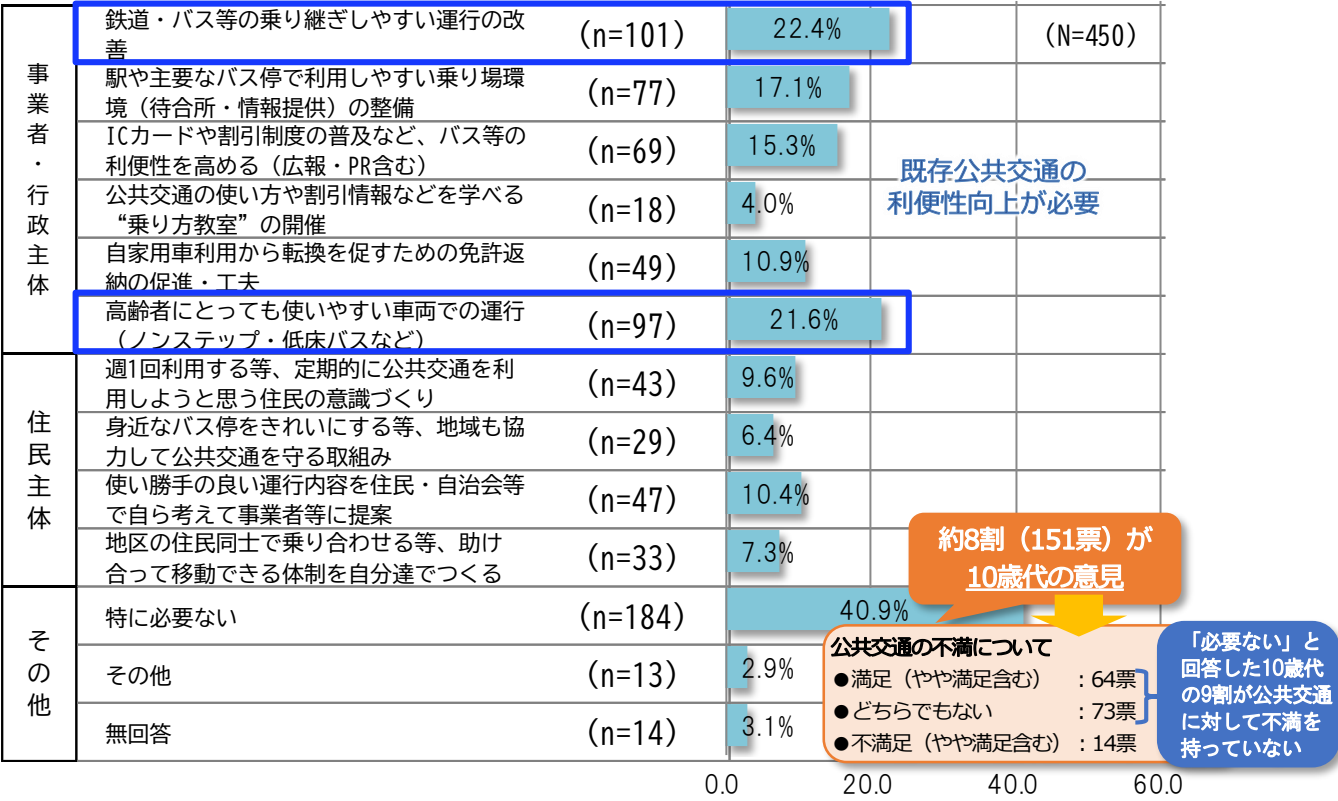


図 維持・利用向上のために、効果が高いと思う取組

既存サービスの利便性向上、高齢者が乗り降りしやすい車両の整備、住民主体の取組が重要

(2) 公共交通維持に関する考え

- 公共交通に維持に関する考えは「財政負担を増やして、運行サービスをより充実させてほしい」が多く、次いで「財政負担を減らすために、運行の効率化（ルートの見直しや減便含む）をする必要がある」となる。

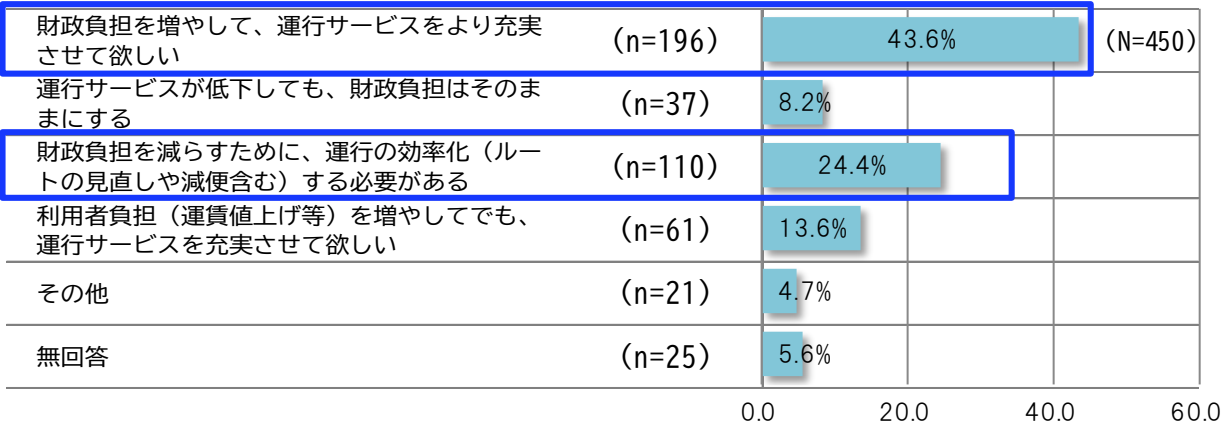


図 公共交通維持に関する考え

既存の運行サービスの向上を求める声が多いため、サービスの充実が重要

7 デマンド交通への意向(65歳以上)

(1) デマンド交通の利用意向

●高齢者のデマンドの利用意向は「利用したい(64.6%)」は半数以上であった。「利用したい」との回答割合が高いエリアは「葛渡小学校区」が最も多く、次いで「袋小学校区」であった。

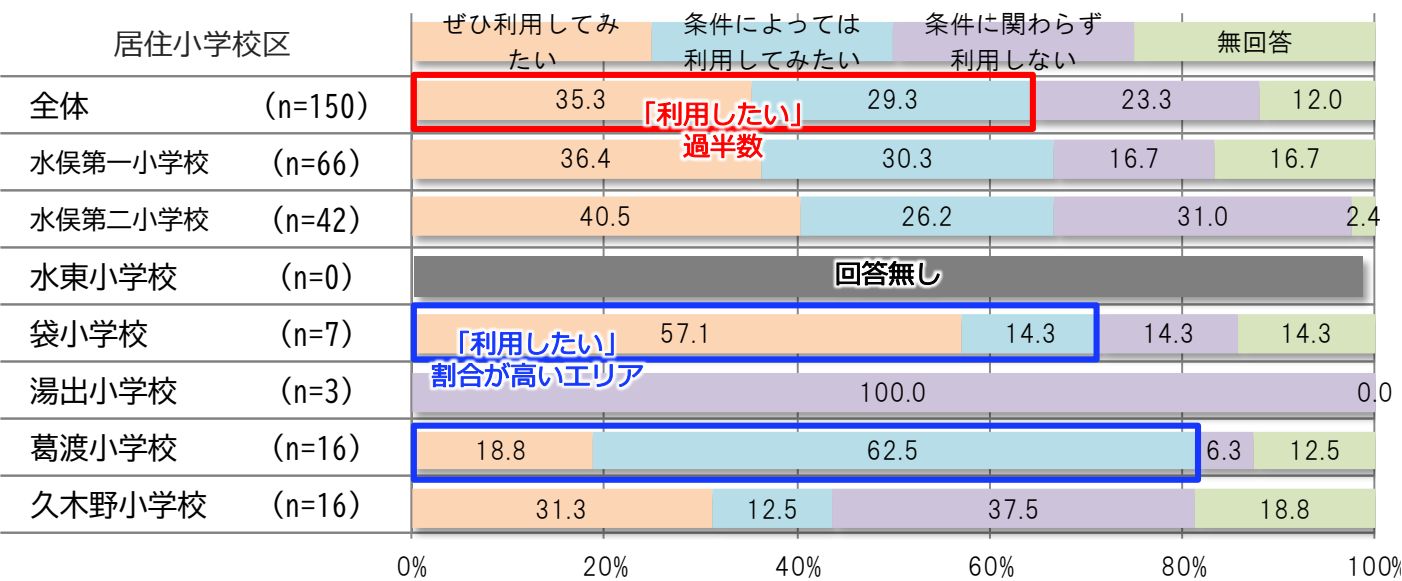


図 デマンド交通の利用意向

葛渡地区や袋地区等の郊外部でのデマンド交通の需要を確認

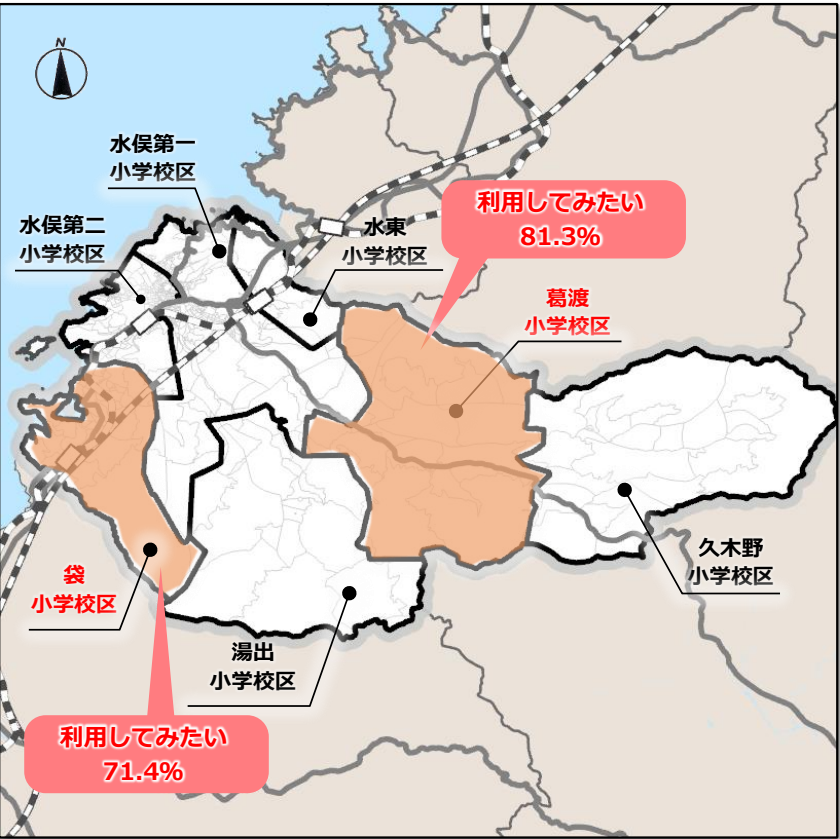


図 小学校区(デマンド交通の利用意向)

(2) デマンド交通に求めるサービス水準(65歳以上)

●デマンド交通に求めるサービス水準は「わかりやすい電話対応(配車予約など)(61.9%)」が最も高く、次いで「目的地の充実(病院、スーパー等)(55.7%)」となる。

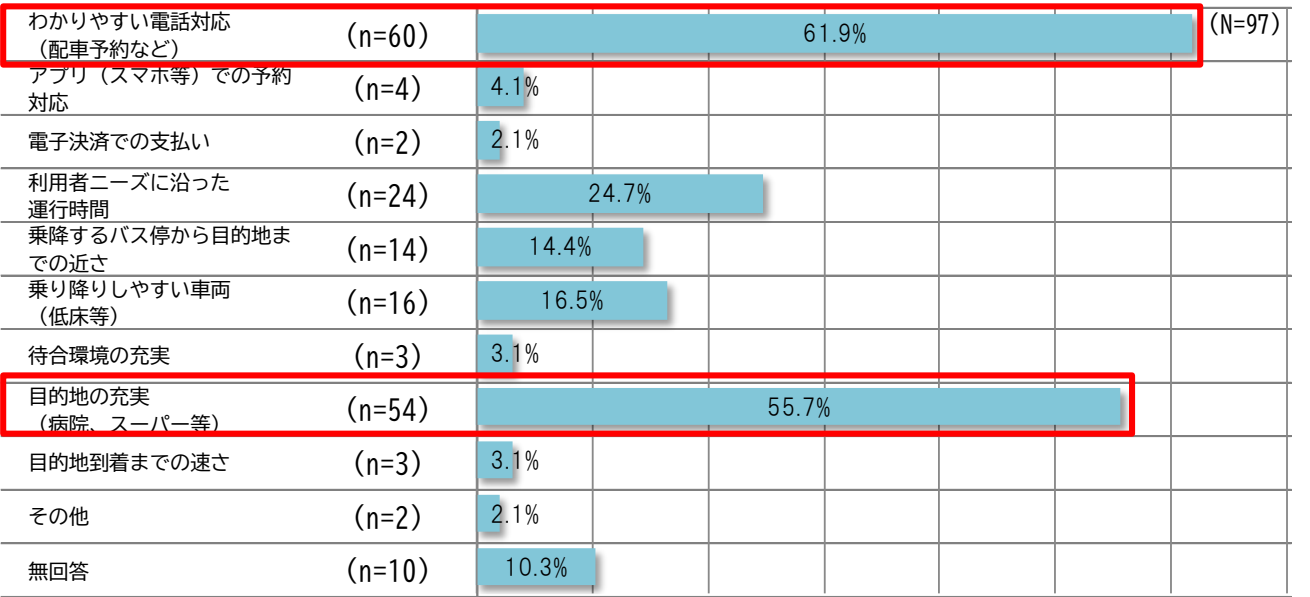


図 デマンド交通に求めるサービス水準

予約は電話需要が高く、行きつけの買い物施設や病院をバス停として求める声が多数

(3) デマンド交通に求める運行内容(65歳以上)

●運行時間は「9時～11時台」が最も多く、午前中に需要が集中している。
●利用料金は「300円台」が最も多く、次いで「400円台」となっている。

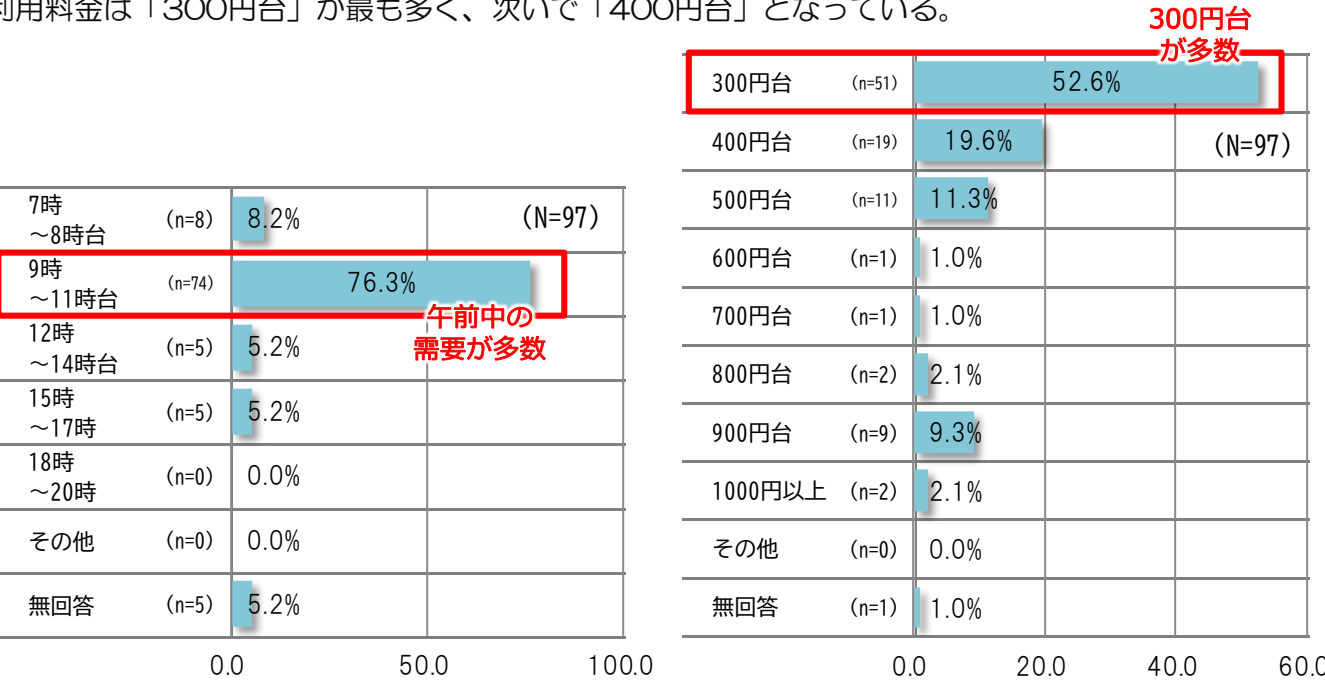


図 運行時間帯

図 利用料金

運行時間帯は「9時～11時台」が最も多く、料金は「300円台」の需要が多数

1 ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査結果【交通事業者】

ヒアリング対象者	ヒアリング結果の概要
①肥薩おれんじ鉄道	○水俣駅は電車利用のためだけでなく、市内の方々が集まって交流できるような空間づくり、憩いの場としても利用されるように駅舎内の模様替えなどを行っていく予定である。 ○現状の時刻表では路線バスやみなくるバスへの乗り継ぎがスムーズに行えていない。 ○水俣市は比較的、駅から近い場所に観光資源があるため、市内観光地の広告、宣伝やイベント情報の周知など駅前広場を活用して、連携を深めていきたいと考えている。
②産交バス	○みなくるバスの利用者は高齢者が多いため、ステップや段差の高さ等の車両の改善に関するご意見があがっている。 ○みなくるバスにて利用が少ない区間があるため、ルート見直しが必要である。 ○利用者増加に向けて、高齢者に向けた乗り方教室等の協力は可能である。
③南国バス	○2024年の労働時間の制約問題があり、ダイヤ改正や減便などで対応を行っている。 ○他の交通と乗り継ぎがスムーズにするために、他の事業者の方との密な調整が重要だと思う。
④大洋タクシー	○乗合タクシー利用者はバス停から自宅まで徒歩で移動することが難しい方もいるため、自宅付近に停車することもある。 ○主なターゲット層である高齢者はみなくるバスを無料(75歳以上)で利用でき、みなくるバスを主に利用しているため、タクシーの売上額が減少している。
⑤水俣タクシー	○タクシー利用者は山間部の方が多く、1日当たり利用人数は10人程度である。 ○乗合タクシーの利用者は高齢者が多く、フリー乗降区間を求めている方が存在する。 ○市内のタクシー運転手が不足しているため、利用者が安心して利用できる環境を整備できるのであれば、ライドシェアの導入検討は必要かと思う。
⑥君島タクシー	○運転手の平均年齢は60歳以上であり、運転手の人数は10年前が35人に対し、現在が19人と減少傾向のため、直近の課題は運転手の確保である。 ○福祉タクシーの利用が多い時間帯は8時～15時であり、1日当たりの平均利用者数6人程度である。
⑦未来交通タクシー	○タクシー利用が多い時間帯は8～14時であり、主な目的地は医療センターや商業施設である。 ○運転手の平均年齢は60歳以上であり、運転手の人数は10年前が10人に対し、現在が3人と減少傾向のため、直近の課題は運転手の確保である。
⑧水俣観光バス	○貸切バスの乗降スペースが市街地に無く、市役所及び文化会館での乗降を希望される利用者が存在する。 ○山間部の道路にて枝木が道路にはみ出している箇所があり、大型バスに傷がつくことがあるため、道路管理を定期的にしてほしい。
⑨訪問介護 ステーションH&K	○福祉タクシーの利用者は午前中に多く、1日当たりの平均利用者は3～5人程度である。 ○利用者が増加しているため、今後は運転手の確保が課題である。

(2) ヒアリング調査結果【市関連部署等】

ヒアリング対象者	ヒアリング結果の概要
①水俣市 教育課	○スクールバスについて、一部団体から利用が無い時間帯に利用させてもらえないかとの相談があったが、「へき地児童生徒援助費等補助金」を活用し運行しているため、認めていない。 ○運転手はシルバー人材センターからの派遣であり、運転手の年齢は65歳以上の方が多いため、今後の運転手の確保が課題である。
②水俣市 いきいき健康課	○高齢者等に向けた、買い物や通院のための移動支援があれば良いと思う。 ○便数が多くないため、乗りたい時間とバスのタイミングが合わない。 ○免許返納後に公共交通機関を利用して外出しようと思う方が多くないため、返納後に閉じこもり気味になる方もいる。 ○バスの待合場所です役所の簡単な手続きや対応相談、インフォメーション等の住民が利点を感じる場所であるといい。
③水俣市 福祉課	○バス停に屋根を設置したり、乗降口のステップが低くするなどすれば、利便性が高まると思う。 ○目的地までの交通接続の向上が必要であると思う。
④水俣市 観光戦略課	○外国人観光客の特徴として、欧米系の方はレンタカーの利用が多く、台湾の方は貸切タクシーの利用が多いため、公共交通を利用は少ないと施設関係者から聞く。 ○TSMC関連で熊本県内に住んでいる台湾の方を意識して、水俣市と天草市を海上つなぐ旅行プランの検討を行っており、10月にモニターツアーを実施する。 ○肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続が良くないと感じる。また、新水俣駅とみなくるバスが接続していないため、新幹線を利用する観光客は不便だと思う。 ○市外からの観光客が多いのは湯の尻海水浴であり、駐車スペースの確保が課題である。 ○観光戦略課として、台湾の方に向けた観光モデルの作成を検討しており、水俣駅及び新水俣駅での二次交通の整備が重要だと思う。 ○レンタルサイクル事業として「水俣市自転車市民共同利用システム」があるが、観光客は「一時利用会員」の登録が必要であるため、少しハードルがあると感じる。
⑤福祉法人水俣市 社会福祉協議会 (民生委員)	○移動支援として、福祉的なお困りごとをお持ちの方を対象に自宅近くから目的地まで送迎し、買い物等の外出支援を実施している。また、現在は実証運行として利用料金は無料としているが、今後の本格運行では有料に切り替える予定としている。 ○運転手の年齢が60歳以上となっており、高齢化が進んでいることから、リスク管理や拘束時間などの労働における健康問題が課題として挙げられている。 ○車両はシエンタ(7人乗り)を使用しており、利用者が6名乗車可能となっている。
⑥水光社本店	○バス停まで歩いて行く事が70代以上の方は難しいのでタクシーを利用されている。また、バスの利用の方も多いが、本数に問題があると感じる。 ○みなくるバスが入らない地域を対応するサービスが出来れば良いと思う。
⑦総合医療センター	○利用者からの公共交通に関する要望は特にない。 ○コロナ禍とコロナ後の施設利用者数の変化はない。

～ 水俣市を取り巻く現状 ～

1. 水俣市の地域特性

(1) 人口の推移

○人口は令和2年時点で23,557人であり、令和27年には15,573人まで減少予想。

(2) 施設の集積状況

○市内の国道3号沿いに生活サービス施設が集積。

2. 地域公共交通の利用状況

(1) 鉄道（肥薩おれんじ鉄道）

○市民アンケートにて「利用する」が18.0%であり、高校生の利用が多い。

(2) みなくるバス

○市民アンケートにて「利用する」が14.9%であり、本調査の中で最も利用されている公共交通である。
○年間利用者数は8万人前後で推移している。市の財政負担額は燃料費等の高騰により増加傾向である。

(3) 乗合タクシー

○市民アンケートにて「利用する」が0.4%と非常に少なく、本調査の中で最も利用されていない公共交通である。
○利用者は年々減少しており、令和5年は令和2年と比べて1,000人以上の減少となっている。

3. 市民ニーズ（市民アンケート調査結果）

【市民アンケート】

(1) 市民の移動特性

○高齢者の約5割が運転免許を保有していない。
○湯出小学校区で自らの移動手段を持っていない方の割合が高い。

(2) 外出時移動の不安・不満

○「将来運転ができなくなった時が不安」や「バスや乗合タクシーが不便だと感じる」との不安に関する割合も高い。

(3) 公共交通の満足度

○「どちらとも言えない（47.6%）」が最も多く、「不満足（やや不満足含む）」と回答割合が多い小学校区は袋と久木野である。

(4) 公共交通の不便さ

○不便と感じた内容は「本数が少ない（79.9%）」が最多となり、次いで「自宅からバス停・駅が遠い（28.1%）」となる。

(5) 本市の公共交通の改善の必要性

○改善内容は「外出時間に合わせた運行ダイヤの見直し（34.2%）」が最多で、次いで「他交通との乗り継ぎ強化（20.8%）」となる。

(6) 目的別の外出行動について【買い物、通院】

○買い物時の出発時間は、「10時台」が最も多く、帰宅時間は「12時台」が多いため、概ね午前中の移動需要が高い。
○通院の出発時間は「8～10時台」に集中しており、帰宅時間は「10～12時台」に集中している。

3. 市民ニーズ（各種アンケート調査結果）

(7) 公共交通の維持・利用向上のために、効果が高いと思う取組

○「鉄道・バス等の乗り継ぎしやすい運行の改善」や「高齢者にとって使いやすい車両での運行」等の改善を求める声が挙がっている。

(8) 公共交通維持に関する考え

○公共交通に維持については、既存の運行サービスの向上を求める声が多いため、サービスの充実が重要である。

(9) デマンド交通の利用意向（65歳以上）

○高齢者のデマンドの利用意向は「利用したい（64.6%）」は約半数であり、葛渡と袋で需要が高い。
○デマンド交通に求めるサービス水準は「わかりやすい電話対応（配車予約など）（61.9%）」が最も高く、次いで「目的地の充実（病院、スーパー等）（55.7%）」となる。
○運行時間は「9時～11時台」が最も多く、利用料金は「300円台」が最も多く、次いで「400円台」となっている。

4. ヒアリング調査結果（交通事業者）

(1) 鉄道（水俣駅）

○水俣駅と二次交通（みなくる・路線バス等）の接続向上が必要。

(2) みなくるバス

○ステップや段差の高さ等の車両の改善に関する意見が挙がっている。
○利用が少ない区間があるため、ルート見直しが必要である。

(3) 乗合タクシー

○フリー乗降区間を求めている方が存在する。

(4) 路線バス

○2024年問題があり、ダイヤ改正や減便などで対応している。
○高齢者に向けた乗り方教室等の協力は可能である（産交バス）。

(5) タクシー

○運転手の平均年齢は60歳以上のため、運転手の確保が課題である。

(6) 貸切バス

○市役所及び文化会館での乗降を希望される利用者が存在する。

5. ヒアリング調査結果（市関係部署など）

(1) 外出促進

○免許返納後に公共交通機関を利用して外出しようと思う方が多くないため、閉じこもり気味になる方が存在する。

(2) 情報発信

○バスの待合場所で市役所の簡単な手続きや対応相談、インフォメーション等の住民が利点を感じる場所であるといい。

(3) 観光客（海外含む）の誘致

○県内に住んでいる台湾の方の誘致に向けて、水俣市と天草市を海上でつないだモニターツアーを実施予定である。
○観光モデルを検討しており、水俣駅及び新水俣駅での二次交通の整備が重要となる。

～ 水俣市における地域公共交通の課題（案） ～

課題① 交通弱者に配慮した移動手段の確保・維持

■令和27年には人口が15,573人まで減少。
■高齢者の約5割が運転免許を保有していない。
■「将来運転ができなくなった時が不安」と感じる方が存在する。
■通勤・通学、買い物、通院は市内の施設を利用が多い。
■令和2年で23,557人であり、令和27年には15,573人まで減少予想。
■多くの交通事業者の運転手の平均年齢は60歳以上のため、今後は運転手の確保が課題である。

取組方針 ▶▶ 地域内公共交通のサービスの在り方の検討

課題② 市民ニーズに沿ったみなくるバスの運行内容の改善

■市内公共交通にてみなくるバスの利用率（14.9%）が最も高い。
■改善内容は「外出時間に合わせた運行ダイヤの見直し（34.2%）」が最多となる。
■不便と感じた内容は「本数が少ない（79.9%）」が最多となる。
■市の財政負担額は燃料費等の高騰により増加傾向である。

取組方針 ▶▶ ニーズに沿った運行サービスの効率化（ダイヤ検討等）

課題③ 新水俣駅及び水俣駅での交通結節点の強化

■公共交通の維持・利用向上のために効果が高い取組として、「鉄道・バス等の乗り継ぎしやすい運行の改善」の意見が多い。

取組方針 ▶▶ 市内交通事業者の連携強化し、乗継の利便性向上

課題④ 利用実態に応じた乗合タクシーの運行内容の改善

■高齢者のデマンドの利用意向は「利用したい（64.6%）」が多い。
■デマンド交通に求めるサービス水準は「わかりやすい電話対応（配車予約など）（61.9%）」が最も高く、次いで「目的地の充実（病院、スーパー等）（55.7%）」である。
■運行時間は「9時～11時台」が最も多く、利用料金は「300円台」が最も多い。
■フリー乗降区間を求めている方が存在する。

取組方針 ▶▶ 乗合タクシーの見直し検討とともに、デマンド交通の導入を含めた運行効率化の検討

課題⑤ 市民や来訪者（海外含む）に向けた公共交通の利用促進

■免許返納後に公共交通機関を利用できず、外出できない方が存在。
■バス案内所にてインフォメーション等を行い、市民が利点を感じる場所が良い。
■県内の外国人居住者の増加に伴い、市内への誘客を促進するため、水俣駅および新水俣駅における二次交通の強化が必要である。

取組方針 ▶▶ 外出を促すための公共交通に関する情報発信の充実

